



IEEE IEEE関西支部
IEEE Kansai Section (Geographic code R00983)

2025 年 IEEE 関西支部 総会資料

2025 年 3 月 24 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2025 年関西支部役員・理事	1
II.	2025 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III.	2025 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	9
IV.	2024 年 活動報告 および 2025 年活動計画	11
V.	関西支部会員数	55
VI.	2024 年 会計報告	57
VII.	2025 年 予算	59
VIII.	受賞者	61
	参考情報	63

2025 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2025 年 3 月 24 日(月) 14 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所: 大阪工業大学 梅田キャンパス
OIT 梅田タワー 2 階 セミナー室 203・204
〒530-0013 大阪市北区茶屋町 1 番 45 号
3. 総会スケジュール
 1. 開会の挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2024 年活動報告および 2025 年活動計画
 4. 2024 年会計報告および 2025 年予算案
<休憩>
 5. Chapter 役員紹介および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE Japan Council メダル授賞式(新 Senior Members)
 9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2025 年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Vice Chair:	高林 幹夫	(三菱電機)
Secretary:	亀山 俊平	(三菱電機)
Treasurer:	平松 星紀	(三菱電機)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
NC Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
SAC Chair:	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
TPC Chair:	石田 昌宏	(パナソニックホールディングス)
AC Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
COC Chair:	太田 能	(神戸大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	有木 康雄	(神戸大学)
WIE AG Chair:	岩元 美由紀	(同志社女子大学)
YP AG Chair:	豊岡 祥太	(関西大学)

4. 理事 (Activities Chair)

EA Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
-----------	-------	---------

5. 理事 (Past Officer)

Past Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
-------------	-------	--------

6. 理事 (Past Committee Chairs)

Past NC Chair	村田 忠彦	(大阪大学)
---------------	-------	--------

7. (Observer)

Past Secretary/Treasurer	向井 英之	(住友電気工業)
--------------------------	-------	----------

8. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	藤本 大介	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン)
	廣瀬 裕	(パナソニック)
	澤田 宏	(日本電信電話)
	佐々木 正人	(シャープ)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	東 俊一	(京都大学)
	椋木 康滋	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪公立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	平松 信樹	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	石野 祥太朗	(古野電気)
	八木 直美	(兵庫県立大学)

b. Nominations Committee

Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	河西 秀典	(奈良先端科学技術大学院大学)
	木村 睦	(龍谷大学)

c. Student Activities Committee

Chair:	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)	
Member:	井上 文彰	(大阪大学)	
	白井 僚	(京都大学)	
	和泉 慎太郎	(神戸大学)	
	加藤 恒夫	(同志社大学)	
	福水 洋平	(立命館大学)	
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)	
	宝田 隼	(関西大学)	
	飯間 等	(京都工芸繊維大学)	
	(Student Representative)	豊岡 祥太	(関西大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	石田 昌宏	(パナソニックホールディングス)
--------	-------	------------------

Vice Chair:	田中 雄一	(大阪大学)
Secretary:	金馬 慶明	(パナソニックホールディングス)

e. Awards Committee

Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	久保田 寛和	(大阪公立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	白石 善明	(神戸大学)
	新谷 道広	(京都工芸繊維大学)
	杉原 英治	(関西学院大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	辻岡 哲夫	(大阪公立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(京都大学)
	東森 充	(大阪大学)
	水谷 圭一	(京都大学)
	元井 直樹	(神戸大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	太田 能	(神戸大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	中原 健	(ローム)
	川口 博	(神戸大学)
	橋本 昌宜	(京都大学)
	岩井 誠人	(同志社大学)
	熊本 和夫	(大阪工業大学)
	吉田 則裕	(立命館大学)
	河合 正	(兵庫県立大学)
	戸田 裕之	(同志社大学)
	滝口 哲也	(神戸大学)
	西村 良太	(徳島大学)
	藤本 健治	(京都大学)
	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
	舟木 剛	(大阪大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	有木 康雄	(神戸大学)
Vice Chair:	大島 一能	(大阪工業大学、元三菱電機)
Vice Chair:	石田 亨	(京都大学)
Secretary	安田 清和	(大阪大学)
Secretary:	伊藤 守	(神戸情報大学院大学、元パナソニック)
Past Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	岩元 美由紀	(同志社女子大学)
Vice Chair:	エバンズ 直子	(TOA・大阪大学)
Vice Chair:	槇原 絵里奈	(立命館大学)
Secretary:	蔭山 享佑	(近畿大学)
Treasurer:	江口 佳那	(京都大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	豊岡 祥太	(関西大学)
Vice Chair:	中島 優作	(総合研究大学院大学)
Secretary/Treasurer:	小川 将広	(立命館大学)
Member:	井上 昂治	(京都大学)
	岩居 健太	(立命館大学)
	佐藤 丈博	(京都大学)
	塩見 準	(大阪大学)
	二社谷 一樹	(大阪大学)
Associate	青木 信雄	(総合研究大学院大学国立情報学研究所)
	伊原 彰紀	(和歌山大学)
	井下 敬翔	(滋賀大学)

j. EA (Educational Activities)

Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Vice Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
Member	東坂 範雄	(三菱電機)
Member	Geng Yuting	(立命館大学)

II. 2025 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	中原 健	(ローム)
Vice Chair:	前元 利彦	(大阪工業大学)
Secretary:	奥 良彰	(ローム)
Treasurer:	松田 時宜	(近畿大学)

2. SSCS (Solid-State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	川口 博	(神戸大学)
Vice Chair:	新居 浩二	(TSMC Design Technology Japan)
Secretary:	三木 拓司	(神戸大学)
Treasurer:	矢野 祐二	(TSMC Design Technology Japan)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	橋本 昌宜	(京都大学)
Vice Chair:	越智 裕之	(立命館大学)
Secretary:	南 政孝	(近畿大学)
Treasurer:	上野 嶺	(京都大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	岩井 誠人	(同志社大学)
Vice Chair:	山本 綱之	(津山高専)
Vice Chair:	西 正博	(広島市立大学)
Secretary:	吉田 賢史	(龍谷大学)
Treasurer:	田澤 拓也	(株式会社 KRI)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Vice Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Secretary:	江 易翰	(大阪公立大学)
Treasurer:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	吉田 則裕	(立命館大学)
Vice Chair:	吉川 智哉	(三菱電機)
Vice Chair:	石川 和史	(パナソニック)
Secretary:	丸山 悠樹	(パナソニック)
Treasurer:	陳 崢	(大阪大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	河合 正	(兵庫県立大学)
Vice Chair:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	石野 祥太郎	(古野電気)
Secretary:	嘉藤 勝也	(三菱電機)
Treasurer:	吉田 賢史	(龍谷大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	戸田 裕之	(同志社大学)
Vice Chair:	高橋 和	(大阪公立大学)
Secretary:	三科 健	(大阪大学)
Treasurer:	竹村 亮太	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	滝口 哲也	(神戸大学)
Vice Chair:	荒木 章子	(NTT)
Secretary:	高島 遼一	(神戸大学)
Treasurer:	中山 雅人	(大阪産業大学)

10. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	西村 良太	(徳島大学)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary:	植村 渉	(龍谷大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	藤本 健治	(京都大学)
Vice Chair:	高井 重昌	(大阪大学)
Secretary:	佐藤 訓志	(大阪大学)
Treasurer:	橋本 和宗	(大阪大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
Vice Chair:	川上 太知	(大阪公立大学工業高等専門学校)
Secretary:	石原 將貴	(岡山大学)
Treasurer:	又吉 秀仁	(大阪工業大学)

13. MAGS (Magnetics Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	白土 優	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪公立大学)

14. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

Chair:	舟木 剛	(大阪大学)
Vice Chair:	濱口 慶一	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Secretary:	永沼 良太	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Treasurer:	山口 哲矢	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Chair:	舟木 剛	(大阪大学)

III. 2025 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	大恵 龍一	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	小山 翼	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	西尾 達也	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	湯森 虎親	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	名執 凌磨	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	名執 凌磨	情報学研究科
Vice Chair:	北池 弘明	情報学研究科
Treasurer:	坂本 耕平	情報学研究科
Secretary:	大野 伶将	情報学研究科

3. 立命館大学 (<https://sites.google.com/site/ieeeritsumeikansb/home>)

Counselor:	孟 林	(立命館大学 電子情報工学科)
Chair:	石田 勝之介	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	松井 亮介	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	鈴木 聖嵐	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	山邊 紘子	理工学研究科 電子システム専攻

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Yohanssen Pratama	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Ndalama Festus Edward	先端科学技術研究科
Treasurer:	Valerie Megan	先端科学技術研究科
Secretary:	Indira Febriyanti	先端科学技術研究科
Webmaster:	Sergio De Leon Aguilar	先端科学技術研究科

5. [兵庫県立大学 \(http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html\)](http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html)

Counselor:	磯川 悌次郎	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	柳川 由紀子	(オムロン株式会社)
Chair:	足立 雄大	工学研究科/電子情報工学専攻
Vice Chair:	坂口 裕也	工学研究科/電子情報工学専攻
Treasurer:	小林 壯哉	工学研究科/電子情報工学専攻
Secretary:	小林 壯哉	工学研究科/電子情報工学専攻

6. [関西大学 \(http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/\)](http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学 教授)
Chair:	松井 遥暉	理工学研究科システム理工学専攻
Vice Chair:	山本 翔平	理工学研究科システム理工学専攻
Treasurer:	坂野 凜	理工学研究科システム理工学専攻
Secretary:	太田 凌	理工学研究科システム理工学専攻

7. [同志社大学 \(https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/\)](https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/)

Counselor:	大崎 美穂	(同志社大学 教授)
Chair:	宮原 絃造	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Vice Chair:	藤川 陸丸	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Treasurer:	藤澤 璃子	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Secretary:	朴 洗薇	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻

IV. 2024 年 活動報告 および 2025 年活動計画

1. 総括

【2024 年活動報告】

LMAG、WIE、YP の各 Affinity Group の活動では、第 26 回 IEEE 関西支部 LMAG 技術講演会「スマートシティ標準化とスマート防災の現状と将来」を開催、第 27 回 IEEE 関西支部 LMAG 講演会「AI 生成や EV 進化の革新をリードする新パワーエレクトロニクス」を第 2 回シンギュラリティ技術講演会として開催、11 回目となる恒例イベント「WIE シンポジウム」を開催するとともに、MAW2024、台風で開催の危ぶまれた R10 SYWL CONGRESS 2024、SBLTW への現地参加者派遣により、他支部との交流を深めた。

支部主催の各種イベントは MDC や TPC 主催の技術講演会等、総会、支部理事会、EA イベント「最先端技術を英語で語ろう」、YP イベント「YP10 周年記念トークイベント」、「第 6 回博士課程のキャリアを語る会」等を集合とオンラインのハイブリッド開催を継続して実施し、また、「Overleaf 勉強会」を東北大学で主催するとともに「IEEE Study Lab 2024 in Sendai」を同じく東北大学で共催して、活動の全国規模化や学生参加者の拡大による充実に努めた。

【2025 年活動計画】

2025 年も、TPC 主催の技術講演会を始め各 Committee、Affinity Group 主催の既存イベントについては、集合とオンラインのハイブリッド開催、あるいは集合開催のみとするなど、各種イベントの性格に応じて多様かつ臨機応変な開催形態の取組を定着させるとともに、支部活動のより一層の活性化と会員増につながる新規イベントの導入も継続検討したい。

そのため、支部理事会・事務局として、Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動に対して、より一層、積極的な支援をおこなう。

2. 総会

【2024 年活動報告】

2024 年 3 月 26 日(火)に大阪倶楽部(淀屋橋)に於いて対面および Zoom によるオンラインのハイブリッド形式で年次総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2023 年の活動実績、2024 年の活動計画を報告。関西支部より 2023 年決算、2024 年予算を報告し承認された。総会中、Young Professionals 賞、学生研究奨励賞授賞式、新シニア会員への関西支部メダル授与式、新 Fellow の紹介・講演会を実施した。参加者は、対面 59 名、オンライン 32 名の計 91 名であった。

【2025 年活動計画】

2025 年は 3 月 24 日(月)14:00~17:30 の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2024 年活動報告】

2024 年は 6 回の理事会を開催し、折々の支部運営について審議した。集合およびオンライン

のハイブリッド開催とした。理事会議論においては、特に支部および支部内組織(Committee、AG等)が主催・共催するイベントの活性化に取り組み、今年は特に新方式での2025/2026年関西支部役員および理事の改選選挙も実施した。

第1回理事会 1月16日(火)、住友ビル12階中会議室、および

Zoomによるオンライン開催(参加16名)

2023年会計報告・2024年予算計画の確認、関西支部総会準備

第2回理事会 3月26日(火)、大阪倶楽部4階ホール、および

Zoomによるオンライン開催(参加19名)

関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)

第3回理事会 5月28日(火)、大阪倶楽部2号会議室、および

Zoomによるオンライン開催(参加18名)

Executive Nomination Committee 設立について

R10ミーティング報告

第1回JC理事会報告

2024年 Young Professionals 賞、学生研究奨励賞の募集について

JC感謝状贈呈対象者推薦(関西支部)

COCミーティングの報告

第4回理事会 7月16日(火)、大阪倶楽部第2会議室、および

Zoomによるオンライン開催(参加18名)

改選選挙スケジュール

第2回JC理事会報告

NC活動報告

各AGイベント紹介

第5回理事会 9月17日(火)、大阪倶楽部第3会議室、および

Zoomによるオンライン開催(参加18名)

2025年理事改選選挙について

AGの選挙規定について

Newsletter No.44 配信案

「2024 Region 10 Best Membership Retention Large Section Award」

を受賞。

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第6回理事会 12月25日(水)、住友クラブ、および

Zoom オンラインによるハイブリッド開催(予定)

2025 年/2026 年関西支部役員および理事について

2024 年会計報告/2025 年予算計画

2024 年各種表彰者 (YP 賞、学生研究奨励賞、新シニアメンバー)

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

【2025 年活動計画】

2025 年は年間 5 回の理事会を計画する。

4. 関西支部主催講演会

【2024 年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)の企画により、主催・共催含め年間 7 回の技術講演会を開催した。詳細については TPC の活動報告に記載。

【2025 年活動計画】

2025 年は年間 5 回程度の講演会(見学会を含む)の開催を予定し、支部活性化を図る。

5. Region 10 Meeting

【2024 年活動報告】

Region 10 Meeting は、2024 年 3 月 2 日(土)～3 日(日)にマレーシア・クアラルンプールの Le Meridien Kuala Lumpur Hotel でハイブリッド開催されたが、今回は日程が合わず関西支部役員の参加は見送り。

【2025 年活動計画】

日程： 2025 年 2 月 22 日(土), 23 日(日)

場所： Incheon, South Korea

関西支部より尾上 Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画等の情報入手と交換、支部メンバーへの共有に努める。

6. MAW / Japan SYWL Workshop / SBLTW

【2024 年活動報告】

2024 年 8 月 29～9 月 1 日に信州大学で開催された、Japan SYWL2024、MAW2024 および付帯イベントに、関西支部より AG メンバー 3 名を派遣したが、丁度台風の影響で交通機関の休止などあり例年より少なくなった。

【2025 年活動計画】

2025 年も、継続して活動活性化を図るため、Student Branch/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催される本イベント活動への参加を積極的に支援する。

7. 協賛会議等

【2024 年活動報告】

・第11回 電子デバイスフォーラム京都

～新時代の日本の半導体/電子部品の飛躍戦略を探る!!～

主催：一般社団法人日本電子デバイス産業協会(NEDIA)

会期：2024年10月31日(木) - 11月1日(金)

場所：京都リサーチパーク(KRP)

・13th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2024)

主催：IEEE EPS

会期：2024年11月13日(水) - 15日(金)

場所：立命館大学朱雀キャンパス

・第77回 アナログ技術トレンド 세미나 (HAB 研セミナー)

主催：NPO 法人高周波・アナログ半導体ビジネス(HAB)研究会

日時：2024年12月6日(金) 14:00~17:00

形式：WEB (Zoom)

8. 情報発信

【2024年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会や AG による活性化イベントの案内等を情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

R10 Newsletter

LMAG を中心に R10 Newsletter への投稿を進めた。

【2025年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページでは、引き続き各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter のタイムリーな発信に努める。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く告知し情報発信に力を入れる。

オンライン開催イベントは、関西支部会員に限らず、本全国の会員を対象に広く周知を図る。

R10 Newsletter

R10 Newsletter への投稿をさらに積極的に進め、関西支部活動について R10 内への英語による周知を図る。

【関西支部 Newsletter の発行】

No.45(2024年4月3日発行)：総会の様子、YP 賞・学生研究奨励賞の受賞者紹介、新 Senior メンバー・新 Fellow の紹介、技術講演会等の開催情報を掲載。

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/news/no45.html>

No.46(2024年10月3日発行): WIE シンポジウム、YP10 周年記念トークイベント、社会人と学生の交流会、博士課程のキャリアを語る会、学生向け企業見学会(ローム株式会社)、LMAG 技術懇話会、TPC 技術講演会の開催情報、および YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせを掲載。

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/news/no46.html>

2025 年も 2 回 (No.47:2025 年 4 月、No.48:2025 年 10 月) の発行を予定している。

9. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2024 年活動報告】

- ・ 2024 年は、第 1 回を 5 月 29 日、第 2 回を 11 月 25 日に、MDC&SAC&YP&WIE Joint Workshop を開催した。昨年はオンライン開催も交えたが今年は2回ともに、大阪ガーデンパレスにて対面で実施した。MDC、SAC、YP、WIE に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズにするとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。また、今年からは WIE を新規に追加し女性会員へのアピールなどを検討した。
- ・ 通常会員の会員数の減少を食い止めるため、Renew のし忘れを防ぐことを目的に、5 月と 11 月に Renew 案内メールを送信して更新を促した。また、シニアメンバーへの昇格申請がスムーズとなるよう申請のための支援を継続し、その結果 2023 年度のシニアメンバー昇格者が 10 名となった。
- ・ 2024 年 12 月 31 日時点での会員数は 2,245 名であり、2023 年度を上回り、コロナ前の 2018 年の水準まで回復している。特にシニアメンバーと学生会員の増加が目覚ましい。
- ・ 10 月 10 日に開催された IEEE 関西 YP が主催する「博士課程のキャリアについて語る会」に協賛し、学生会員の IEEE への入会を勧める講演を行った。昨年続き、10 月 9 日に、IEEE 関西 YP、SAC と共同で合同イベントを開催し、MDC に所属するメンバーの企業（京セラ、シャープ、日本電信電話、パナソニック、古野電気、三菱電機）より、仕事内容や、仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表することで、社会人と学生の相互理解を深めた。これらのイベントを通じて、IEEE パンフレットやノベルティグッズを配布し、IEEE メンバーへの勧誘とシニアメンバー昇格への案内を行った。
- ・ 新たな試みとして YP と協賛し、11 月 12 日に「IEEE Kansai Section 学生向け企業見学会」を開催し、ローム株式会社の内部を学生会員を中心に見学することで企業での取り組みなどを紹介した

【2025 年活動計画】

2025 年も継続して、会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP/WIE と連携しながら、特に Senior member と学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP/WIE Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ アップグレードの勧誘と申請サポートとを通して、シニアメンバーの一層の増加を目指す。IEEE Computer Society Kansai Chapter の取り組みを JC MD 会議等を通じて他

Committee、Chapter に展開し、昇格者増加の道筋を作る。

- 学会や研究会における広報活動 (IEEE のポスターやパンフレットの配布等) により、IEEE への入会勧誘を行う。しかし、オンライン開催によりこれが困難である場合は、ポスター・パンフレットを MDC 役員の所属機関に配布することで広報活動を実施する。
- 年 2 回の Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防止する。

b. Nominations Committee

【2024 年活動報告】

2024 年 2 月 7 日締め切りの 2025 年 Fellow Nomination に際し、関西支部所属の会員からの Fellow 推薦を行ない、3名の昇格があった(1名は申請時、大阪大学所属)。

今年度は、年末定例の Fellow Club を 2024 年 12 月 23 日に実施したことに加え、大学や企業を訪問して実施する出張 Fellow Club を 3 回実施した。6 月 19 日大阪大学大学院情報科学研究科、6 月 25 日三菱電機先端技術総合研究所、11 月 26 日奈良先端科学技術大学院大学で実施することができた。IEEE 会員だけでなく、非会員の方にも参加できるようにすることで、IEEE の取り組みについて紹介する機会ともなった。

【2025 年活動計画】

2025 年は、2025 年 2 月 8 日締め切りの 2025 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。また、「IEEE 関西支部 Fellow Club」や関西支部のイベントの機会を活用して、現 Fellow から積極的に推薦していただくようお願いする。更に、IEEE メンバー資格昇格のための勉強会・講演会を関西在住の企業や大学に出張して開催する。

c. Student Activities Committee

【2024 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き学生会員の増強、学生会員の活動支援等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB) を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP、WIE と合同で Workshop を開催(5 月, 11 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 Student Branch の Chair により Student Branch Chair Meeting を関西大学にて開催した(6 月 13 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。YP より二社谷様に来ていただき、YP との共同開催企画についても議論を行った。
- (4) SB 研究交流会を 8 月 2 日に梅田にてハイブリッド形式で開催した。各参加者が研究発表形式で行い、互いの研究内容について議論を行った。

- (5) SB 全体のイベントとして、LMAG および YP と共催で English Presentation Competition を 11 月 25 日に立命館大学びわこくさつキャンパスにて開催した。当日は 13 名の参加があり、各自が取り組む研究内容に関して英語による発表が行われた。
- (6) SB と LMAG との共同企画として計画しているブレインストーミング大会は、コロナで不開催が続き、その間に企画方法の引き継ぎが失われ、本年も開催できなかった。今後、企画の刷新を含めて新しい企画として立て直すなど工夫が必要と考える。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。
- (8) 12 月 22 日に兵庫県立大学の主催で、年末交流会(引継ぎ会)を実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。
- (9) その他、R10 SYWL および SBLTW、北海道 SB との共催イベントなど、他支部の SB との交流イベントへの学生派遣を支援し、学生活動の一層の活発化に努めた。

【2025 年活動計画】

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を模索する。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同により)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2024 年活動報告】

2024 年は、主催および共催を含め、以下の表に示す計 4 回の技術講演会を実施した。

開催日	実施形態	講演者	参加者数 (IEEE 会員)	主催・共催組織名

第 125 回	2024年 5月27日	テーマ：スマートシティ標準化とスマート防災の現状と将来			
		対面・ オンライン	下地 達也 氏 (パナソニックホールディングス(株)プラットフォーム本部総括) 大石 哲 氏 (神戸大学都市安全研究センター/工学研究科市民工学専攻 教授)	77 (60)	LMAG 主催 TPC 共催
第 126 回	2024年 6月29日	テーマ：AI生成やEV進化の革新をリードする新パワーエレクトロニクス			
		対面・ オンライン	細谷 達也 氏 (株式会社村田製作所)	86 (51)	(第2回シンギュラリティ技術講演会) LMAG,TPC 主催
第 127 回	2024年 11月20日	テーマ：AIやカーボンニュートラルの進化を支える、デバイスプロセス・信頼性技術			
		オンライン	浦岡 行治 氏 (奈良先端科学技術大学院大学 物質創生科学研究科教授)	48 (21)	TPC 主催 NC 共催
第 128 回	2024年 12月12日	テーマ：革新技術が未来社会をどう変えるか「共創と協調」			
		対面・ オンライン	小川 理子 氏 (パナソニックホールディングス(株) 参与、関西渉外・万博推進担当、テクニクスブランド事業担当/2025年日本国際博覧会協会理事) 宮部 義幸 氏 (パナソニックホールディングス(株) 取締役/副社長執行役員、渉外担当、ソリューションパートナー担当、東京代表)	207 (65)	(第3回シンギュラリティ技術講演会) LMAG,TPC 主催 大阪大学,WIE, YP 共催

各講演会の開催に先立ち、IEEE 関西支部ホームページによる告知に加え、IEEE Japan Chapter を通じた eNotice(IEEE 会員向けメール案内)の発信を行うことで、関西支部にとどまらず広範な参加を促し、アクティビティの向上に寄与した。

第 125 回講演会では、パナソニックの下地氏と神戸大学の 大石先生をお招きし、スマートシティの標準化およびスマート防災に関する講演をいただいた。近年、ICT を活用したスマートシティの構築が着目されており、日本初のスマートシティ標準規格が国際規格として制定されるとともに、防災や復興においてもその活用が進んでいる状況が紹介された。第 126 回講演会は、昨年度京都大学名誉教授の松波先生にご講演いただいたシンギュラリティ技術講演会の第 2 回として開催した。講演者として、村田製作所の細谷氏をお招きし、高度化したパワーエレクトロニクスが、近年伸長著しい AI や EV の分野を支えていることをご紹介いただいた。第 127 回講演会では、

奈良先端科学技術大学院大学の浦岡先生をお招きし、昨年フェローの称号を授与された根拠となる光を用いた革新的な信頼性評価技術を含む最新の研究成果をご発表いただいた。また、フェロー申請の過程についてもご紹介いただき、会員に対して IEEE メンバー資格の昇格をエンカレッジする内容となった。第 128 回講演会は第 3 回シンギュラリティー講演会として実施、パナソニックの小川氏と宮部氏にご講演いただいた。小川氏からは、開催が迫る大阪万博の主要な展示コンセプトと未来社会に技術がどう貢献していくかを紹介していただき、宮部氏からは、AI 化やカーボンニュートラルが進展していく未来社会に向かって、我々が DX や GX の分野で如何に取り組んでいくべきかのお考えを述べていただいた。万博を直前に控え講演内容に興味を持っていただくとともに関西支部メンバーの積極的な参画により、多くの方にご参加いただいた。

【2025 年活動計画】

2025 年も引き続き、技術講演会の開催を主たる活動として位置づける。オンライン形式もしくは対面併用のハイブリッド形式で、年 4 回程度の講演会を企画・開催することを目指すとともに、IEEE 会員の知見や視野拡大につながるセミナー等への協賛や開催支援も進める予定である。

上記の活動においては、複数の Chapter にまたがる横断的分野や、特定の Chapter に属さないような新規分野・境界分野、あるいは市場や技術の最新動向に関する内容の講演会を、積極的に企画・開催する。

e. Awards Committee

【2024 年活動報告】

昨年に引き続き、学生会員ならびに若手会員を対象として、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本年度は、6 月 1 日に募集を開始し、10 月 4 日に応募を締め切った。その後、応募者の支援資料を 10 月 25 日までに受理し、当委員会による選定の後、12 月 25 日の支部理事会において「学生会員」部門、および「大学や研究所の若手会員」部門でそれぞれ 1 名ずつの受賞者を決定した。また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。Young Professionals 賞と同様に、6 月 1 日に募集を開始し、10 月 4 日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12 月 25 日の支部理事会において 4 名の受賞者を決定した。

【2025 年活動計画】

2025 年は、従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」ならびに「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会ならびにメーリングリストにおいて、賞の存在をより積極的に周知する。これらの賞の応募数については、2024 年度は前年度に比べて少なくなっていた。そのため、応募数を増やすために SAC とも協調し、Student Branch での活動等 IEEE への貢献が顕著な学生会員に応募を積極的に呼びかける。また、「企業の若手会員」部門へ応募がなかったため、企業の若手会員に同賞への応募を積極的に呼びかける。

f. Chapter Operations Committee

【2024 年活動報告】

主たる活動は、2025 年から開始される Chapter 支援費申請審査業務に備えた準備である。この準備として、Japan Council (JC) における支援審査の改訂に関する動向を把握するとともに、JC COC (Chapter Operations Committee) ミーティングの議事録を作成し、Kansai Section 理事会において情報共有を行った。

また、2024 年より JC COC から Tokyo Section COC に移管された Chapter 支援費申請審査業務においては、Kansai Section COC Chair および Secretary がオンラインで陪席し、審査方法の概要を把握した。さらに、JC COC Secretary の三宅氏および JC 事務局の加藤氏と協力し、関西支部向けに導入された kintone アプリを用いた審査オペレーションのテストを実施した。

加えて、kintone アプリの最終メンテナンス期間終了後、2024 年 12 月 25 日に最初の審査業務に着手しており、円滑な審査運営に向けた体制の構築を進めているところである。

【2025 年活動計画】

2025 年は、COC Chair と COC Secretary が協力し、Chapter 支援費申請に関する審査事例を体系的に蓄積することを主な活動目標とする。これにより、申請における具体的な注意点や改善点を抽出し、支援申請の精度向上を図る。また、これらの知見を基に、関西支部に属する各 Chapter に配布されている「IEEE Chapter 支援について(2022 年 9 月 21 日)」の内容を更新する予定である。この更新では、申請プロセスや審査基準に関する最新の情報を反映し、実用的かつわかりやすい資料とすることを目指す。これらの取り組みを通じて、Chapter 支援費審査の透明性と効率性を高めるとともに、関西支部全体の活動をさらに活性化させることを目標とする。

g. Life Members Affinity Group

【2024 年活動報告】

シンギュラリティの探究 LMAG は推進方針に多様性を掲げ、2023 年よりシンギュラリティ技術講演会などを開催してきました。シンギュラリティとは、レイ・カーツワイル氏が提唱した 2045 年の AI による人間超越という概念ですが、私たちは「革新技術が社会を大変革する時」と捉えています。具体的には、革新技術の社会実装が「文明の転換」をもたらし、その共鳴と連鎖が持続する状態を指します。過去 100 年では、電気電子技術、コンピュータ、インターネット、AI が該当し、社会実装を通じて大革新を連鎖的に引き起こしました。新周辺技術が共創によって連鎖的に生まれ、急速な社会変革を促します。社会目標への協調的な取り組みこそが、シンギュラリティたる大社会変革をもたらすと捉え、その可能性を探る講演会を目指してきました。

多様な試みで 2024 の講演会では、「スマートシティとスマート防災」をテーマに、企業と大学の講演者が強靱なインフラ確立に向けた技術を議論し、従来取り上げられることの少なかった標準化もテーマに加えました。「情熱と挑戦」をテーマにしたエンジニアライフ懇話会では、年齢を問わず電子技術への親しみ方やその楽しさが熱く語られ、共感を呼びました。今年最大のイベント「革新技術は未来をどう変えるか」では、「万博、DX と GX」をテーマに、関西 LMAG 最大規模の活発な講演会となりました。新しい試みとして、懇親会ではジャズピアニストでもある講演者の小川理子さんの歌と演奏が、参加者の連帯感を育み、大き

な感動を生みました。

ハイブリッド講演会のシステム化 この技術講演会は、ハイブリッド講演会で開催しました。これらの運営に関する情報を共有ドライブ管理する業務企画管理システム LK-Homs(LMAG Kansai Hybrid Online Management System)を整備し実用化しました。このシステムによって、ハイブリッド講演会の企画から事後処理までの一連の運営は大変スムーズになりました。2024年12月最終の第3回シンギュラリティ講演会は、大盛況で最も感動的な講演会となりました。

2024年5月27日「スマートシティ・スマート防災現状と将来」を開催し会場21名、オンライン61名が参加しました。冒頭、LMAG 関西の榎木 Chair が開会挨拶を行い、IEC(国際電気標準会議)での震災のIEC白書の基本コンセプトが日本発の国際規格として推進されていることなどが紹介されました。

パナソニック ゼネラルマネージャー下地達也氏が「スマートシティの国際標準化状況 - 都市部の機能・施設の継続計画」と題して講演を行いました。続いて、神戸大学都市安全研究センター大石悟教授より、「スマート防災-デジタルツインの自動生成と自動災害シミュレータの構築-」と題してご講演いただきました。参加者からは、3つの講演を非常に高く評価され、終了後の懇親会には17人が参加し、多様性に富んだ技術談義を楽しみました。



スマートシティ・スマート防災講演会集合写真



最上階のレストランで懇親会。

第2回シンギュラリティ技術講演会 6月29日、LMAG 関西はIEEE 関西支部と共催で第27回技術講演会を大阪工業大学梅田キャンパスにてハイブリッド形式で開催しました。村田製作所 主席研究員の細谷達也氏が「AI世代とEV進化におけるイノベーションをリードするニューパワーエレクトロニクス」と題して講演されました。会場19名、オンライン102名が講演に参加しました。冒頭では、松波弘之京都大学名誉教授からご挨拶を頂きました。終了後は、10名が懇親会に参加し、レストランでテーマや関連技術についてのトークを楽しみました。



第2回シンギュラリティ技術講演会集合写真



松波先生を囲んで懇親会

12月12日第3回シンギュラリティ技術講演会を、大阪大学中之島センターにて、ハイブリッド形式で開催しました。LAMGA 関西 Chair の榎木氏が共催の大阪大学に謝辞を述べ、開会趣旨について、シンギュラリティとは革新技術が「社会実装」され、「文明の転換」をもたらし、その「共鳴が連鎖」するときに、革新技術は「共創し」講演①、社会目標には「協調」講演②の位置づけを説明されました。



講演会の写真



小川理子氏



宮部義幸氏

講演①では一般社団法人 2025 年日本万国博覧会協会理事、パナソニック参与の小川理子氏より、「大阪・関西万博で紹介される革新技術が社会にもたらす変革とは」と題してご講演いただきました。人類の生命という普遍的な問いと、テクノロジーの力がそれにどのような影響を与えるのかを探求し、大阪関西博覧会のテーマである「生命が輝く未来社会をデザインする」をテーマに講演を行いました。

講演②ではパナソニック取締役副社長で IEEE ライフメンバーの宮部義幸氏より、「やがて来る未来に向けて～ DX・GX への挑戦～」と題してご講演いただきました。現在、気候変動は半導体や生成 AI など様々な新技術によって引き起こされていると考えられており、「2050 年カーボンニュートラルを実現する社会の変化」というスローガンは避けて通れない未来です。こうした背景を踏まえ、これらの課題に対して日本が取るべきスタンスを提言しました。

会場では 104 人、オンラインでは 103 人が参加しました。参加者が記入したアンケートによると、講演内容やハイブリッド会議運営が非常に良いと評価されました。講演会終了後、懇親会は約 60 名の満席で、ジャズピアニストとして有名な小川さんが自身の万博最終プレゼンターでの苦労したトークに加えてピアノ演奏と弾き語りを披露し、出席者に大きな感動を与えました。



講演者の記念写真



懇親会の写真



小川さんの歌とピアノ演奏

11月21日、第3回 LMAG 技術懇話会、「情熱と挑戦」豊かなるエンジニアライフ懇話会第1回を開催しました。元松下電子工業専務の川崎達夫氏が、「マイコンに実装した自作の教育ツールを使った若手 LSI エンジニア育成」をカンボジアとモンゴルで 20 年以上にわたって継続してこられた経緯をご講演い

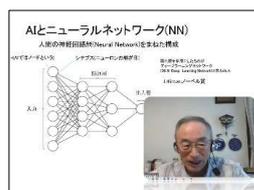
いただきました。この成果によりモンゴル国立教育大学から名誉教授に任命されています。元 IEEE-JC Chairの奈良先端技術大学院大学 小山正樹名誉教授は「生成 AI をパートナーに」と題して講演されました。「ChatGPT」の開発・普及の歴史を振り返り、事業領域への影響や今後の様々な可能性について言及しました。お二人は、現役時代に素晴らしい業績を上げられた後、リタイア後に全く新しく始めた活動で再び感動的な成果をあげておられます。これはオンライン会議のみで行われ、74名が参加しましたが、両発表とも非常に大きい感動を与えました。この講演に対し LMAG 関西と LMAG-JC は、お二人に感謝状を贈呈しました。



河崎達夫氏



河崎氏感謝状



小山正樹氏



小山氏感謝状

関西支部他団体との連携として、9月7日、大阪工業大学梅田キャンパスにおいて、「英語で語る最先端技術 -技術コミュニケーションの基本要素-」と題した「第4回 IEEE 関西支部 EA イベント」がハイブリッド形式で開催され、LMAG 関西支部はこれを共催しました。2021年からは、若手研究者や高校生を奨励する関西支部教育活動に協力しており、LMAG 関西小林 Past Chair が支援し、LMAG 関西役員も参加しました。



EA イベントの集合写真

11月25日、立命館大学草津キャンパスにて、IEEE 学生支部関西支部が主催する「IEEE 立命館大学学生支部英語プレゼンテーションコンペティション 2024」が開催されました。小林 Past Chair が審査員の一人として参加しました。13件の技術発表が行われ、4名4つの賞で表彰され、関西 LMAG では「LMAG 賞」を贈呈しました。



立命館 SB 英語プレゼンコン 13名の発表者とともに

WIE シンポジウム 2024 10 月 5 日、IEEE 関西支部 WIE(Women in Engineering)アフィニティグループは、第 11 回 WIE シンポジウムを「科学と技術と暮らしを楽しもう!」と題して、立命館大学茨城キャンパスにてハイブリッド形式で開催しました。関西 LMAG は共催し、関係役員が参加しました。

YP Conference 2024 11 月 10 日、IEEE 関西支部 YP(Young Professionals Affinity Group)は、名古屋支部 YP、ジャパンカウンシルと共催で、設立 10 周年記念ワークショップ、6 月 6 日 6 回目「博士課程でのキャリア開発」を開催しました。LMAG 関西役員もイベントに参加しました。

IEEE R10 SYWL2024 Congress、2024 IEEE R10 Students, Young Professionals, Women In Engineering and Life Members (SYWL) Congress は、IEEE Asia-Pacific Region (R10) の半年ごとのイベントです。2024 年は、8 月 29 日に東京で、ジャパンカウンシルと日本国内の IEEE 全支部が主催して開催されました。LMAG 関西では参加予約するも台風による交通停止のため参加できませんでした。

LMAG 役員会議 2024 は、オンラインで 8 回の役員会議を開催しました。その 1 例として、2025 年に LMAG 関西理事会の新役員について議論し関西 LMAG の By Laws を改訂しました。



2024 年の新ライフメンバー歓迎会

3 月 25 日、2024 年の新ライフメンバー歓迎会をオンラインで開催しました。新メンバー 7 名と LMAG 関西役員 7 名が参加しました。参加者は、幅広いトピックについてのトークを楽しみました。

R10 LMAG ミーティング R10 ミーティングが 4 回オンラインで開催され、いずれも LMAG 関西の榎木 Chair が参加しました。

2025 年の計画

2025 年に新たに就任した役員のもと、LMAG 関西での活動をさらに強化していきたいと考えており、2025 年に向けた現在の計画は以下の通りです。

- 1.LMAG 関西役員会議：隔月。
- 2.LMAG 技術講演会・シンギュラリティ技術講演会・エンジニアライフ技術懇話会：
ハイブリッド形式で 3 回以上。
- 3.LMAG 関西の新たなメンバーの歓迎会。
- 4.外部の技術トピックスの見学会など、地理的に離れた地域の LMAG メンバーと交流を目指す。

- 5.YP、WIE、SB AG のイベントに共催・協賛します。
- 6.教育活動(EA)と Student Branch 英語プレゼンテーションコンペティションの支援。
- 7.年に一度、LMAG 関西ニュースレターに掲載し、広く活動を会員に報告し、参加を呼びかけます。

h. WIE Affinity Group

【2024 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

2024 年は Kansai WIE の 11 周年目であり、10 周年を経て新たに活動を活発化していく年とした。毎年秋開催の WIE シンポジウムについては前年のポスターをより見やすくし集客効果を狙った。また、対面による参加を中心に考えつつ、より遠方からの方々にも参加してもらうために、オンラインと現地開催のハイブリッド方式での開催とした。



IEEE Kansai WIE シンポジウム 2023 ポスター

シンポジウムは 2024 年 10 月 5 日(土)に立命館大学いばらきキャンパスとオンラインで「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2024」を開催した。IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group、IEEE Kansai Section Educational Activities、IEEE Kansai Section Life Member Affinity Group、IEEE Student Branch at Osaka University、IEEE Student Branch at University of Hyogo、IEEE Student Branch at Ritsumeikan University、IEEE Student Branch at Kyoto University、IEEE Student Branch at Kansai University、IEEE Student Branch at Doshisha University、IEEE Student Branch at Nara Institute of Science and Technology、IEICE Kansai Section.に共催いただき、特に広報に関して協力し準備を行った。昨年を作成したエコバッグに加えて、IEEE のノベルティも多く用意して配布を行った。

シンポジウム前半では、例年の女性技術者や研究者に加え、元 Kansai WIE であり、現在高等専門学校の校長を務めている女性にも講演を依頼し、話をさせていただいた。題目と

講演者は以下の通りである。

「ゆるふわプログラミング学習 - 柔軟性と多様性を目指して」

立命館大学 - 講師 榎原絵里奈 氏

「画像で植物の形を測る - 植物画像処理とその応用」

大阪公立大学 - 講師 内海ゆづ子 氏

「学び直しからキャリア形成と校長としてのチャレンジ」

鹿児島工業専門学校 - 校長 上田悦子 氏

シンポジウムの後半は、現地参加の方々とオンライン参加の方々に分けて、グループトークを実施した。テーマは「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」である。

シンポジウムへの参加者は 76 名となった。関西の主な大学の男女参画推進室への案内を行い、更には関西圏の大学や高校へのポスター送付の効果も見られた。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして、開催形態は問わずに、「関西の」女性技術者・研究者、理系の女子大学院生・学部生、そして理系進路選択を考える女子高校生のエンパワメントを目的として継続していく予定である。



WIE シンポジウム 2024 集合写真

(2) 役員会

- 1) 2024 年 04 月 03 日 2024 年第 1 回委員会 (対面, 及びオンライン)
- 2) 2024 年 05 月 24 日 2024 年第 2 回委員会 (対面, 及びオンライン)
- 3) 2024 年 08 月 26 日 ポスター、チラシ等配送作業 (対面)
- 4) 2024 年 10 月 05 日 2024 年第 3 回委員会, 及びシンポジウム (対面, 及びオンライン)
- 5) 2024 年 11 月 18 日 2024 年第 4 回委員会 (対面)

【2025 年活動計画】

2025 年は、新たな役員体制で、更なる活性化を図っていく。

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。

- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。理系の女子大学院生や学部生の近い未来のキャリア支援、さらに理系進路を考える高校生への進路選択の一助となるような内容も含めることで、参加者層を拡張する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。
- ・ 半導体分野で活躍している技術者の方に技術講演をお願いする。

i. Young Professionals Affinity Group

【2024 年活動報告】

SAC、MDC、WIE AG、EA、SB と連携し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進するためのイベントを企画、共催した。

また、他 Section の YPAG との合同イベントを 2 件開催し、Kansai Section の YP AG として国内の若手技術者の交流及びキャリアアップ支援を行った。

以下、主なイベントの一覧。

- ・ (合同開催) IEEE Japan YP Study Lab 2024 in Sendai (18-May)
 - ・ 【共催】「GitHub と ChatGPT を用いた個人 HP 作成」
 - ・ 【主催】「Overleaf 勉強会」
- ・ (共催) IEEE Kansai Section 第 4 回 EA イベント (7-Sep)
- ・ (主催) 第 3 回 社会人と学生の交流会 (9 Oct)
- ・ (共催) IEEE Kansai WIE シンポジウム 2023 (21-Oct)
- ・ (共同主催) 第 5 回 博士課程のキャリアについて語る会
-IEEE Japan YP Career Lab 2023 in Himeji- (12-Nov)
- ・ (後援) The 20th English Presentation Competition in Ritsumeikan (1-Dec)
- ・ (共催) The 4rd Hokkaido Young Professionals Workshop (12-Dec)
- ・ Board Meeting (毎月開催)

【2024 年主催イベント報告】

YPAG 主催イベント「Overleaf 勉強会」

イベント概要

本イベントは若手技術者のスキルアップを目的として実施した、オンライン LaTeX エディタである Overleaf の勉強会である。Overleaf はブラウザで利用でき、複雑な環境構築が不要なオンライン LaTeX エディタである。有料会員であれば無制限の共同編集、外部サ

ービス (GitHub、Dropbox、Mendeley など) による執筆の効率化が可能である。
Overleaf 導入の最初のきっかけとして、IEEE 論文のテンプレートを共同で編集し、簡単な使い方を理解できることをゴールとした。また、本イベントは IEEE Japan YP Study Lab 2024 in Senedai の一部として Sendai Section YP AG のイベント「GitHub と ChatGPT を用いた個人 HP 作成」と連催で行った。

日時: 2024 年 5 月 18 日(土) 13:30-16:30

10:30-12:30	連催 : GitHub と ChatGPT を用いた個人 HP 作成 (Sendai Section YP AG 主催)
12:30-13:30	(昼休憩、受付)
13:30-13:40	開会挨拶、勉強会の進め方の説明
13:40-14:20	講演 1 : Overleaf の使い方
14:20-14:30	(休憩)
14:30-15:40	講演 2 : LaTeX の文法
15:40-15:50	(休憩)
15:50-16:20	講演 3 : integration ツールとバックアップ・オフロード方法の紹介
16:20-16:25	IEEE YP 活動紹介
16:25-16:30	閉会挨拶

場所: 東北大学 青葉山北キャンパス 情報科学研究科教育研究棟 2 階 中講義室
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
オンライン (Zoom Meeting)

YP AG 主催イベント「第 3 回 社会人と学生の交流会」

イベント概要

本イベントは YP AG と関西支部内 SB との連携強化を目的とし、Membership Development Committee (MDC) に所属する社会人メンバーに仕事内容や、仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表いただくことで、互いに交流の機会が少ない社会人と学生が交流し相互理解を深めるイベントである。

本イベントは、YP AG と関西支部内 SB との連携強化を目的として開催した。IEEE 会員外の学生を含む、計 15 名が集まるイベントとなった。参加者の感想によれば、「企業の研究者がどのような考え方をしているのか、今自身が取り組むべきことについて知ることができた」という意見が多く挙げられ、イベントが参加者にとって有益であったことが示され

た。また、学生と講演者同士の交流だけではなく、講演者同士でも活発な交流が見られ、普段関わることがない方々が交流する非常に貴重がイベントとなった。

来年の開催では、再度参加成約を取り除いた形で開催すること、加えて講演者の講演ではなくパネルディスカッション形式にすることを検討している。新たな参加者を引き寄せることで、本イベントが関西支部における若手技術者のキャリアアップ・ネットワーキングにおいて重要な位置を占めることを期待する。

日時: 2024年10月9日(水) 14:00-16:20 / 17:00-19:00

14:00-14:10	開会の挨拶: 豊岡
14:10-15:10	ご講演 3 件
15:10-15:30	(休憩)
15:30-16:10	ご講演 2 件
16:10-16:20	閉会の挨拶: 二社谷
18:30-19:30	意見交換会

場所: 大阪大学 中之島センター 7階 セミナー室 703

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

YPAG 合同主催イベント

「第6回 博士課程のキャリアについて語る会-IEEE Japan YP Career Lab 2024 in Osaka-」

「IEEE Kansai YP 設立 10 周年記念トークイベント」

イベント概要

「IEEE Kansai YP 設立 10 周年記念トークイベント」は 10 周年を迎えた IEEE Kansai YP の歴代 Chair 4 名をお迎えし、これまでの YP 活動と YP に関する before/after について自叙伝をお話しいただくトークイベントである。

「第6回博士課程のキャリアについて語る会」は現役の博士後期課程の学生および博士学位取得後に大学や企業に就職したか方々を招き、パネルディスカッション形式の講演およびグループディスカッションを通じて、学生会員を主体として自身のキャリアについて考えるイベントである。本イベントは副題を「-IEEE Japan YP Career Lab 2024 in Osaka-」とし、Japan Council の支援のもと YPAG としての横断的な結束力の強化を目的として、隣接支部の Nagoya Section YPAG と合同主催でイベント運営を行なった。

10 周年記念イベントは歴代の Officer から博士課程のキャリアについて語る会に参加する

若手まで幅広い年代の参加者が集まった。各 Chair の活動方針により活動のバリエーションが見られ、これからの YP 活動に関して考える非常に良い機会となった。

博士課程のキャリアについて語る会は、今回で 6 回目の開催となったが、合計 45 名の参加者が集まり、今回初めて導入したパネルディスカッション形式の講演も活発な質疑が飛び交い、グループディスカッション含めて大いに盛りあがりを見せ参加者にとってより深い理解を得る場となった。また、コーヒブレイクの時間には、学生と講演者の交流だけでなく、教員同士のネットワーキングも活発に行われ、教育ネットワークの拡大に貢献した。

「博士課程のキャリアについて語る会」の参加者を対象とした事後アンケートでは、イベントの満足度は 95%が 5 段階中 4 以上、次回以降の開催形態について 90%が「パネルトーク形式が良い」と回答した。また「博士課程という不安定な立場において、どのような心構えを持つべきかが理解できた」という声が寄せられ、特に学部生や修士課程の学生にとって有益な内容であった。博士課程への進学者が伸び悩んでいる昨今において、本イベントは若手研究者・若手技術者・学生自身による貴重な体験を共有する数少ない場を提供できたといえ、若手会員の本会への参加および貢献を促進する重要な役割を果たしている。

博士課程のキャリアについて語る会の次回開催において、博士課程進学に悩む学生や社会人をより多く取り込むための工夫を検討している。現行の eNotice に加え、JC 公式 SNS (X、Instagram) を活用した広報活動を展開する予定である。また、今回のオンライン参加者からの質問が少なかったことを踏まえ、オンラインでも質問しやすい環境を整備し、質問への回答時間を十分に確保する方針である。これらの改善を通じて、本イベントが関西支部における若手技術者の博士課程への理解を一層深めることに寄与することを期待している。

日時: 2024 年 11 月 10 日(日) 10:00-11:05 / 11:15-16:30 / 17:00-19:00

10:00-10:10 トークイベント開会

場所: 大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪) 会議室 1202

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3-51

10:10-10:55 歴代の活動について

10:55-11:05 現在の YP 活動について

11:05-11:15 (休憩・場面転換)

11:15-11:25 語る会開会・進行説明

11:25-12:20 セッション 1 : アカデミアのキャリア形成

13:20-14:00 セッション 2 : 企業から見るアカデミアとの違い

14:00-14:40 セッション 3 : 現役博士課程学生と考えるキャリアパスの描き方

14:40-14:50	休憩
14:50-16:20	ディスカッション
16:20-16:30	閉会の挨拶
16:30-17:00	(休憩・移動)
17:00-19:00	合同ネットワーキングセッション

【2025 年活動計画】

引き続き支部内で連携イベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進する。

昨年実施できなかった Workshop / Competition 系イベントの実施も検討している。

「Overleaf 勉強会」を始めとする他 Section の YP AG との合同イベントも予定している。

全国各地に YP AG メンバーを派遣してネットワーキングやキャリアアップ活動を行うことで、新規 YP 会員の獲得および他支部から転入した YP 会員の継続的な YP 活動支援を目指す。

j. Educational Activities

【2024 年活動報告】

2020 年後半に JC より各支部から担当を出すよう依頼があり、当時の田邊 Past TPC Chair が新たに関西支部における EA Chair に選出され活動を開始した。

EA(Educational Activities)は、IEEE 本部のある米国では以前から活発に活動をしており、IEEE 会員、会員以外の IEEE 技術に関心のある一般、高校生などに向け、関連技術教材の作成、無料の技術講演会、ワークショップなどを開催する教育的啓蒙活動を行っている。米国で作成した教材は、非常によく出来たものであるが、使用言語が英語であり、自動翻訳では十分に意味が取れない難点があるため日本語化はされていない。

そのため、Region 10 の中でもインドなども含め、ローカルの言語での EA 活動が呼びかけられており、福田 Past IEEE President の強い働き掛けもあり、2021 年より JC 取りまとめで活動を興した。

とはいえ IEEE の特徴は、最先端の技術を英語で学べるところにあり、「英語で学ぶ先端技術」を大テーマとして、高校生、大学生、若手エンジニアが、直に英語で講演や文献に触れ、英語で技術を理解し、技術ディスカッションが出来ることをサポートしていく。

以下、昨年 2024 年 9 月 7 日(土)にハイブリッド形式(現地:大阪工大梅田キャンパス)で開催した「第 4 回 IEEE 関西支部 EA イベント」の内容を紹介する。

昨年は、「講演」「ビデオ講演会」に加えて、「IEEE Japan Office による IEEE と教育教材の紹介」をおこなった。

13:00-13:20 あいさつ、概要説明など

第1部: 13:20-14:20 講演:

「優れた人々との出会い、変化に挑もう！」

“Encounters with exceptional individuals, embracing change”

講演者: 櫻井明久さん

株式会社システムデザイン研究所(顧問)



1982年日本アイ・ビー・エム(株)入社。通信端末装置開発、EMC技術開発、技術開発センター、スマートシティ事業、基礎研究所にて勤務。2005年IBM Distinguished Engineer 就任。2020年定年退社。現在(株)システムデザイン研究所・顧問、山形大学ナスカ研究部門・客員教授(AI部門長)

14:30-14:45 IEEE Japan Office による IEEE と教育教材の紹介



Try Engineering: 4歳～18歳までを対象として工学の概念を教えるレッスンプラン(現時点で134個)を提供 Pre-university STEM education programs



IEEE Learning Network: プロフェッショナル向け。各専門分野についてスキルアップのための eLearning コースプログラム(現時点で1466個)を提供 Continuing Education Courses

14:45-16:50 ビデオ講演会&インタラクティブディスカッション

「量子コンピュータをめぐる国際競争」

“The International Race For A Quantum Computer”

/Kristine Boone, PhD Photonic Inc

使用教材: Presentation from 2023 Workshop on Quantum Computing: Devices,
Cryogenic Electronics and Packaging (QC-DCEP)

IEEE EA の用意したビデオ教材を使い、英語を英語として聞き、理解し、議論することを目的としました。

本講演では、ブーン博士が CMOS と互換性のあるシリコンフォトニクスとスピンをベースとした Photonic inc. の量子コンピューティングアプローチを含め、量子技術がいかに我々の生活を根底から変えるか、そして加速する世界的なプロトタイプ開発競争のスナップショットを提供した。討議では、量子コンピュータの原理的な話ではなく、今後の発展や生成 AI のハードウェアとしての可能性などをディスカスした。



実行委員による言語的な補助を行い、英語が得意でない方も参加できるようにした。また、事前に量子コンピュータに関する用語集、基本的な原理解説を送り、文系の人にも参加しやすいようにした。

16:50-17:00 質疑、ラップアップ

【2025 年活動計画】

2025 年度も8月後半、または、9月初旬の土曜日に EA イベント開催を予定している。大テーマとして「英語で学ぶ先端技術」は引き続き維持し、高校生、大学生、若手エンジニアが、英語で先端技術を学ぶ機会を作り、その能力向上をサポートしていく。

関西支部 EA として独自に教材を作成することはマンパワーもあり行わない。高校生などにとっても、技術を英語で学ぶことは有益であり、本部の英語教材で内容的によく出来ているものは、積極的に紹介していく。

EA 単独ではマンパワー不足であり、TPC, WIE, LMAG, YP などの協力をお願いし、JC、他支部とも協力し、活動を盛り上げていく。会員各位のご協力をおお願いすると同時に、活動に対する提案をお待ちしている。今年も国内学会との差別化として IEEE らしく英語の強化をしたい。関西支部の外国籍の方なども、巻き込んでいきたいと考えている。

今期も支部 EA Chair 続投予定である。また、本年 1 月 1 日より、立命館大学教授の西浦元 TPC Chair が EA Kansai Chair に就任する。米国の本部では EA は重要視されているが、日本では始まったばかりで認知度が低い。また、組織として支部マンパワーを有していないので、経験のある人や支部内で顔が利く人でないと、イベント企画もままならない。経験豊富なベテランでなくても遂行できる、つまり、より多くの方に就いていただけるような準備も支部で行う予定である。また取り上げる内容は、高校生や文系の方には、やや背伸びが必要なものを考えているが、そういった分野、レベルの英語に「慣れて」いただくことを目標としたい。

10. Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2024 年活動報告】

2024 年も、2023 年に引き続き、復活した従来のオンサイト開催と、コロナ禍をきっかけとして始まったオンライン開催の両方を活用して、以前と同じ行事でありながら、以前にも増して効果的に活発な活動ができた。オンサイト開催は、オンライン会議が多くなるいまだからこそ、雰囲気の体感とヒューマンネットワークの形成の重要性が再認識されていると考える。いっぽう、オンライン開催は、その利便性と参加の金額設定により、圧倒的な集客力が期待できる。以下のそれぞれの行事の詳細を報告する。

[主催]

● IEEE DL 講演会 (EDSK Education Committee 主催)

年月日/会場 2024 年 04 月 09 日 奈良先端科学技術大学院大学&オンライン

出席者数: 約 25 名 (IEEE 会員 15 名 + 非会員 10 名)

演 者: Dr Radu A. Sporea (University of Surrey, United Kingdom)

演 題: Key considerations for obtaining high performance contact-controlled devices

● IEEE Kansai EDS ラウンドテーブルワークショップ

年月日/会場 2024 年 08 月 30 日 龍谷大学 梅田キャンパス セミナールーム &
オンライン(Zoom)開催 → 台風のため オンライン(Zoom)開催

講演件数: 2 件 / 出席者数: 14 名

演 者: 若本恵佑 様 (ローム株式会社)

演 題: 社会人博士課程の振り返り: 挑戦する上で大切なこと

演 者: 野口宗隆 様 (三菱電機株式会社)

演 題: 博士学位取得について ~研究者人生はこれからだ!~

ラウンドテーブルワークショップは、電子デバイス関連の企業活性化のために行っており、今年が 5 年目である。昨年の前回は、直近のシニア昇格を遂げた演者にその体験を語ってもらうことで、今後のシニア昇格の活性化を期待した。今回は、直近の社会人博士の学位取得を遂げた演者にその体験を語ってもらうことで、今後の社会人博士の学位取得の活性化を期待している。

● 第 24 回 関西コロキウム電子デバイスワークショップ

年月日/会場 2024 年 10 月 11 日 オンライン(Zoom)開催

講演件数: 9 件 / 出席者数: 59 名

https://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/2024/The_24th_Kansai_Colloquium_Electron_Device_Workshop.pdf

過去一年(2023 年 4 月~2024 年 3 月)の IEEE EDS の論文誌や主要 Conference のなかから、関西に関係のある研究者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうものである。IEEE EDS Kansai Chapter of the Year Award と IEEE EDS Kansai

Chapter MFSK Award がそれぞれ 1 件選出された。これらの Award は Chapter 支援費利用事業である。

- IMFEDK 2024 (The 2024 International Meeting for Future Electron Devices, Kansai)
年月日/会場 2024 年 11 月 21～22 日 龍谷大学 深草キャンパス 成就館&オンライン(Zoom)開催
講演件数:38 件 / 参加登録者:167 名 / Zoom 参加アカウント 124 接続先
EDS Kansai Chapter の唯一かつ最も権威ある国際会議である。Keynote として平川氏(東京大学)・若林氏(東京科学大学)・森氏(産業技術総合研究所)・招待講演者 6 人のみなさまから、ご講演いただくとともに、口頭講演・ポスター講演(ショートプレゼン付き)があった。IMFEDK Best Paper Award の 1 件・IMFEDK Student Paper Award の 3 件が選出された。一昨年・昨年に引き続きオンサイトとオンラインのハイブリッド開催であり、関西 Chapter 20 周年の一昨年の 436 名や昨年の 215 名には及ばなかったが、参加登録者 167 名と、ハイブリッド開催のメリットを最大限に活かした盛大なイベントが実施できた。IMFEDK 開催費用と Award は、Chapter 支援費利用事業である。

[後援]

- 発光型／非発光型ディスプレイ合同研究会(電子情報通信学会 電子ディスプレイ研究専門委員会)
年月日/会場 2024 年 01 月 25～26 日 龍谷大学アバンティ響都ホール校友会館&オンライン(Zoom)開催
出席者数: 会場 47 名 Zoom 58 名
演者・演題: https://ken.ieice.org/ken/program/index.php?tgs_regid=b68fad23bb3d28300ea42de13780e45a121d9e31fa570c8eb4ab997db25625a8&tgid=IEICE-EID
- AM-FPD '24
年月日/会場 2024 年 07 月 02～05 日 龍谷大学 深草キャンパス 成就館
- 技術講演会(学生向け)
年月日/会場 2024 年 10 月 21 日 龍谷大学 瀬田キャンパス
出席者数: 約600名 + 今後のオンデマンド
演者: 渡邊博文 様 (Watanabe 技術コンサルティング(W.T.C.))
演題: スマートホンとは ～最先端工学の結晶を紐解く～
演者: 河西秀典氏(元 シャープ福山セミコンダクター株式会社)
演題: 企業における研究開発 ―光デバイスと化合物半導体を中心として―
※龍谷大学の科目「理工学のすすめ」
- NEDIA 第 11 回 電子デバイスフォーラム京都
年月日/会場 2024 年 10 月 31 日～11 月 01 日 京都リサーチパーク(KRP)

[委員会]

- IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 総会・委員会
年月日/会場 2024 年 02 月 19 日 オンライン(Zoom)開催
出席者数: 23 名
- IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 委員会

年月日/会場 2024年05月09日 オンライン(Zoom)開催

出席者数: 21名

● IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 総会・委員会

年月日/会場 2024年07月31日 オンライン(Zoom)開催

出席者数: 18名

● IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 委員会

年月日/会場 2024年10月25日 オンライン(Zoom)開催

出席者数: 21名

【2025年活動計画】

2025年も2024年とほぼ同様に、オンサイト開催とオンライン開催の両方を活用して、以下の行事を予定している。若手研究者も対象とした国際会議や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行うとともに、会員獲得につなげることも目標とする。

[主催]

- DL・技術講演会
- ラウンドテーブルワークショップ
- 関西コロキウム電子デバイスワークショップ
- IMFEDK (International Meeting for Future Electron Devices, Kansai)

[後援]

- 技術講演会(学生向け)

[委員会]

- IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 総会2回・委員会4回

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2024年活動報告】

3月15日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で技術セミナー (ISSCC 2024 国内報告会) をハイブリッド形式で開催した。全18件の講演があり、参加人数は154名であった。

5月9～10日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、LSI とシステムのワークショップ 2024 をハイブリッド形式で開催した。参加人数は460名であった。また Academic Research Award を2件与えた。

7月24日に、2024 VLSI シンポジウム国内報告会(主催:IEEE SSCS Japan Chapter) を共催した。全10件の講演があり、参加人数は60名であった。

8月1日～2日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar (主催:東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター (d.lab)主催)に協賛した。参加人数は12名であった。

8月5日～6日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は4名であった。

8月21日～23日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は28名であった。

9月2日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は10名であった。

9月3日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は7名であった。

9月5日～6日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は10名であった。

9月9日～10日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は10名であった。

9月17日～19日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は5名であった。

9月24日～25日に開催された、d.lab-VDEC Refresh Seminar（主催：東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催）に協賛した。参加人数は6名であった。

9月26日～27日にハイブリッド形式で開催された、第18回アクセラレーション技術発表討論会に協賛した。参加人数は37名であった。

9月28日～30日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 夏の合宿（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は30名であった。

11月1日にハイブリッド形式で開催された、ハードウェアセキュリティ研究会に協賛した。参加人数は46名であった。

11月12日-14日にハイブリッド形式で開催された、デザインガイア2024-VLSI設計の新しい大地に協賛した。参加人数は148名であった。

【2025年活動計画】

2025年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。グローバルな流れを考えると、対面でのイベント開催とオンラインでのイベント開催のハイブリッド形式の実施を目指す。関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に

協賛し、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2024 年活動報告】

2024 年は、5 件の技術講演(主催1件、共催 4 件)を開催した。また、4 件の国内学会に協賛した。主催、共催、協賛イベントの詳細は以下の通りである。

[主催]

- 1月17日 IEEE CASS Kansai Chapter Seminar (講演 1 件)
- (その他、役員会を1月31日と12月12日に開催した)

[共催]

- 3月15日 ミューオン起因ソフトウェアに関する研究成果報告会 (講演 7 件)
- 7月8日 セミナー "Nonvolatile Computing from Energy Harvesting Systems to Datacenters" (講演 1 件)
- 8月5日 セミナー "Quest for Scaling Earthly AI Holistically - Advancing AI to help children with speech and language service needs" (講演 1 件)
- 9月4日 第10回ソフトウェア(などの半導体の放射線効果)勉強会 (講演 5 件、ポスター発表 8 件)

[協賛]

- 5月9日～5月10日 LSI とシステムのワークショップ 2024
- 11月7日 第206回システムとLSIの設計技術研究発表会 (優秀な学生に IEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award を授与)
- 11月12日～11月14日 デザインガイア 2024
- 11月23日～11月24日 第67回自動制御連合講演会

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催した。2022 年から設立された「IEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award」を 2024 年も1名に授与し、学生の研究活性化を行った。他学会主催の国内大会の協賛も実施し、参加者との交流を通じた CASS 関西チャプターの活動のアピールと会員の獲得に努めた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

【2025 年活動計画】

2024 年から引き続き、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、研究者・技術者向けの質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢

献するとともに会員獲得に努める計画である。

Web: <https://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2024 年活動報告】

昨年引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。2024 年は、主催技術会議 3 件を実施した。

【主催技術会議】

1. 4月11日に、神戸ポートオアシス 502 会議室にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として「梶 貴博 氏 (NICT)」をお招きし、「電気光学ポリマーを用いたアンテナ結合型テラヘルツ光変調器の研究開発」と題してご講演いただいた。
2. 9月19日に、高松商工会議所会議室にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として「小西 善彦 氏 (元広島工業大)」をお招きし、「誘電体導波路アンテナにおける扇形ビーム形成」と題してご講演いただいた。
3. 12月14日に、龍谷大学瀬田キャンパスにて、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催した。講演者として「武居 厚志 氏 (パナソニック株式会社エレクトリックワークス社)、五十嵐 俊 氏 (株式会社オートネットワーク技術研究所)、濱政 光 氏 (パナソニックホールディングス株式会社)をお招きし、それぞれ「スポット気流商品のスロット筐体設計事例の紹介」、「CASE 時代の EMC 対策に向けた取り組み」、「マイクロ波無線給電の研究開発」と題してご講演いただいた。また、各大学等からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【2025 年活動計画】

昨年引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画するとともに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

【主催技術会議】

1. 2025 年 1 月 23 日に、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。開催場所 場所: ろうかん (労働会館、松江) 大会議室 401, 講師: 笹岡 秀一 氏 (同志社大学), 演題: 電波伝搬特性に基づく秘密鍵共有における特性改善の検討 を予定している。
2. 2025 年 4 月某日に、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。開催場所・

講演者は現在選定中である。

3. 2025年11月某日に、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。開催場所・講演者は現在選定中である。

4. 2025年12月某日に、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催場所・共同主催する予定である。講演者は現在選定中である。

【協賛等技術会議】

1. 2025年1月10日に、国民宿舎小豆島 2F 会議室にて、URSI-C 委員会 第26期 第4回公開研究会(香川)が開催され、協賛する。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2024年活動報告】

2024年は技術講演会を2回協賛し、IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会を2回開催した。

[技術講演会]

1. 「移動無線アクセスを支える IoT/マイクロ波・ミリ波/光ファイバ通信技術の展開」 ワークショップ

講師：松村 武 (情報通信研究機構)

タイトル：NICT が取り組む多様性のある社会を支えるための無線通信基盤開発

講師：鬼沢 武 (東京理科大)

タイトル：無線アクセスネットワークにおける 6G/IOWN への期待と展望

講師：釣谷剛宏 (KDDI 総合研究所)

タイトル：将来の無線・アクセスネットワークを支える光通信技術

年月日：2024年10月26日 同志社大学 今出川キャンパス

主催：IEEE MTT-S Kansai Chapter

共催：IEEE COMS Kansai Chapter、IEEE PHOS Kansai Chapter

出席者数：37名

2. 第15回光・電波フォーラム「進化する防災テックの最先端」

講師：梅野 健 (京都大学)

タイトル：南海トラフ大地震が来る1時間前に何ができるか？

-プレスリップを検出する OHB(One Hour Before)システムの構築について-

講師：松野 文俊 (大阪工業大学)

タイトル：災害対応ロボティクスの現状と未来

講師：藤井 輝也 (東京科学大学)

タイトル：移動通信の未来 -災害時における移動通信の活用-

年月日：2024年11月19日 オンライン開催 (Zoom ウェビナー)

主催：KEC 関西電子工業振興センター

出席者数：97名

[IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会]

1. IEEE ComSoc 主催 DL 講演会

演者：Nan Yang 教授 (Australian National University)

演題：Enabling Terahertz Communications for 6G and Beyond Wireless Networks

年月日／会場：2024年4月10日 大阪公立大学 文化交流センター

出席者数：22名

2. IEEE ComSoc 主催 DL 講演会

演者：Yong Liang Guan 教授 (National Technological University)

演題：BEM (Basis Expansion Model) Receivers for Severe Doubly Selective Fading Communication Channels

年月日／会場：2024年4月18日 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス

出席者数：22名

広報活動を活性化するため、Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行っている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

【2025年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。今年ではできるだけオンライン開催も含めて開催数を増やすようにする。春以降に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会への積極的な共催をはかり、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2024年活動報告】

2024年は1件の技術講演会と、1件のポスターミーティングを主催、及び2件の協賛を行った。

技術講演会は2024年10月4日15:00-17:30に、パナソニックホールディングス株式会社 技術部門 西門真地区構内に於いて、「生成AIのガバナンス、品質マネジメント最新動向」をテーマとし、2件の講演を行った。1件目は「AI品質マネジメントの現状と生成AIへの対応について」と題して、産業技術総合研究所の妹尾芳樹氏に、AIの品質マネジメントについての課題と、それを解決する枠組みを産総研が策定した「機械学習品質マネジメントガイドライン」の内容を中心に説明いただき、さらに最近注目を集めている生成AIについて、品質マネジメント視点での課題と解決への方向性を論じて頂いた。2件

目は NTT データグループの伏田享平氏に、企業における効果的な AI 活用にあたって考慮が必要な観点として、倫理面や社会受容性があり、これらを推進する上で不可欠な「AI ガバナンス」の世界的な動向とその重要性について述べていただくとともに、NTT DATA での AI ガバナンスの取り組みについてもご紹介を頂いた。講演会では、70 名（内 IEEE 会員 16 名）の参加登録を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

ポスターミーティングは上記技術講演会と同じ 2024 年 10 月 4 日に、場所も同じくパナソニックホールディングス株式会社 技術部門 西門真地区構内において開催した。ただし会場は別スペースを用意し、開催時刻も上記講演会の前の時間の 13:30-15:00 に開催と、上記技術講演会の枠組みとは完全に分けて開催した。「パナソニックホールディングス技術部門 AI 国際学会採択論文のポスター発表会」とし、パナソニックホールディングス技術部門の方から 6 件のポスター発表を行った。1 件目は「生成 AI を応用したロボットの接触動作の学習技術 (IROS2024 採択論文)」で岡田 雅司氏、2 件目は「自己教師あり表現学習における表現の操作技術 (OJSP2024 採択論文)」で中村拓紀氏、3 件目は「外れ値に頑健な変化検知 (ICML2024 採択論文)」で南雲亮佑氏、4 件目は「コンテキストを考慮した知ったかぶらない AI (UAI2024 採択論文)」で奥野智行氏、5 件目は「言語モデルを活用した認識能力制御学習 (ACM MM2024 採択論文)」で志村拓実氏、6 件目は「見落としに着目した物体検出向け能動ドメイン適応 (CVPR2024 採択論文)」で中村譲氏に、それぞれご発表いただいた。技術講演会と異なり、よりカジュアルな開催雰囲気であったこともあり、技術講演会参加者に加え、パナソニックホールディングスの社員も参加し、およそ 100 名近い参加者となり盛況であった。

また CS Tokyo/Japan Chapter と共同で IEEE CS Kansai Young Author Award の募集と選考を実施したが、残念ながら本年は 7 名の応募数のうち、関西地域からの応募がゼロだったため、表彰者は無しであった。なお 7 名の応募者に対する査読審査には参加し、Tokyo/Japan Chapter の Young Author Award 選考・表彰に協力した。

【2025 年活動計画】

2025 年は引き続き技術講演会ならびにポスター発表、Young Author Award を実施するとともに、学生や若手研究者を主な対象とした研究活動の奨励と質の高い技術情報提供を行い、積極的な IEEE 会員獲得を目標とする。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2024 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. DML(Distinguished Microwave Lecturers) (共催)

演者：Dr. Vadim Issakov (Braunschweig University of Technology / Infineon Technologies)

演題：MILLIMETER-WAVE SYSTEM AND CIRCUIT DESIGN FOR HIGHLY-INTEGRATED RADAR TRANSCEIVERS

年月日：2024年3月28日

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 大岡山西8号館(E) 10階大会議室

出席者数：37名 (会員31名、非会員6名)

2. 第17回マイクロ波英語発表会 (主催)

年月日：2024年7月6日

会場：京都大学 宇治キャンパス 木質ホール 3F 大会議室

発表件数：16件/参加者数34名 (会員15名、非会員19名)

3. IEEE MTT-S Kansai Chapter ワークショップ (主催)

「移動無線アクセスを支える IoT/マイクロ波・ミリ波/光ファイバ通信技術の展開」

(1) 演者：松村 武 (情報通信研究機構)

演題：NICT が取り組む多様性のある社会を支えるための無線通信基盤開発

(2) 演者：鬼沢 武 (東京理科大)

演題：無線アクセスネットワークにおける 6G/IOWN への期待と展望

(3) 演者：釣谷剛宏 (KDDI 総合研究所)

演題：将来の無線・アクセスネットワークを支える光通信技術

年月日：2024年10月26日

会場：同志社大学 今出川キャンパス 良心館 102 番教室 (ハイブリッド開催 Zoom)

出席者数：37名 (会員27名、非会員10名) (オンライン参加19名)

4. IEEE MTT-S Kansai Chapter and IEEE AP-S Kansai Joint Chapter

合同若手技術交流会 2024 (共催)

(第一部) 講演

(1) 演者：武居 厚志 (パナソニック株式会社エレクトリックワークス社)

演題：スポット気流商品のスロット筐体設計事例の紹介

(2) 演者：五十嵐 俊 (株式会社オートネットワーク技術研究所)

演題：CASE 時代の EMC 対策に向けた取り組み

(3) 演者：濱政 光 (パナソニックホールディングス株式会社)

演題：マイクロ波無線給電の研究開発

(第二部) ポスターセッション

年月日：2024年12月14日

会場：龍谷大学 瀬田キャンパス

出席者数：57名 (会員20名、非会員37名)

II. 選奨

1. IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award

I. の 2. に記載の英語発表会で優れたプレゼンテーションを行った者に「Best Presentation Award」を授与した。更に、上位 1 名に対して「IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award」を授与した。授与式は 2024 年 12 月 14 日に実施。

2. IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award

MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter の合同で、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手(38 歳以下)の研究者個人に「IEEE Microwave Theory and Techniques Society Japan Young Engineer Award」を贈呈した。また、その中から特に優れた論文の著者に対して「Mitsuyuki Uenohara Memorial Award」を進呈した。

※受賞者は以下に記載

https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/YEA_past_awardees/index.html

※対象者の要件等は以下に記載

<https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/index-j.html>

3. 合同若手技術交流会 2024 Best poster Award

I. の 4. に記載の合同若手技術交流会のポスターセッションにて優れたプレゼンテーションを行った 3 名に「Best poster Award」を授与した。授与式は 2024 年 12 月 14 日に実施。

III. 協賛

1. 第 17 回日本電磁波エネルギー応用学会研究会 -電磁波を利用した合成と分解- (主催 : JEMEA)

2024 年 1 月 26 日 オンライン

2. 第 21 回無線電力伝送コンテスト (「手ぶら参加歓迎！」一気軽に体験できる電界結合ミニ四駆レース) (主催 : 電子情報通信学会無線電力伝送研究専門委員会)

2024 年 3 月 13 日 ハイブリット開催 (京都大学宇治キャンパス)

3. 第 15 回日本電磁波エネルギー応用学会講演会

- 日欧における鉄鋼生産と資源利用の新展開のためのマイクロ波利用 - (主催 : JEMEA)

2024 年 5 月 24 日 オンライン

4. The 5th Global Congress on Microwave Energy Applications 2024

2024 年 7 月 22 日~25 日 九州大学 椎木講堂

5. 2024 Thailand-Japan Microwave

2024 年 10 月 2 日~10 月 4 日 キングモンクット大学ノースバンコク校(KMUTNB) & キングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)

6. 2024 Microwave Workshops & Exhibition (MWE 2024)

2024年11月27日～11月29日 パシフィコ横浜

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. KC 役員会

2024年1月31日／Web会議 出席者数：10名

2024年12月5日／Web会議 出席者数：8名

2. JC/KC/NC 合同役員会

2024年3月12日／Web会議 Chapterからの出席者8名

2024年8月23日／Web会議 Chapterからの出席者4名

3. 2024年IEEE 関西支部総会

2024年3月26日／ハイブリッド開催 Chapterからの出席者1名

4. 2023年IEEE Chapter Operation Committee

2024年5月22日 ハイブリッド開催 Chapterからの出席者数：1名

2024年11月13日 ハイブリッド開催 Chapterからの出席者数：1名

【2025年活動計画】

2025年は、オフライン及びハイブリッドでの開催形式をベースとして、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う。技術領域としてはこれまでの戦力領域の枠組みに拘らず、新領域分野の開拓も検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者2名にIEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Awardを授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者3名にIEEE MTT-S Japan Young Engineer Awardを授与し、その学術的貢献を表彰する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続きMTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapterと共同で行う。2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2024年活動報告】

Technical Meetingとして、1月22日(月)に、京都大学にて、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、上田悠太氏(NTT)から「コヒーレントWDMシステム用の電界制御による波長可変レーザー」という題目でご講演いただいた。参加者は25名と

盛会であった。本講演会は、翌日 23 日(火)も含む 2 日間にわたって開催された、電子情報通信学会 MWP/THz/PN/EMT、電気学会 EMT 研究会との併催である。

7 月 4 日 (木) には、イギリス・ケンブリッジ大学の Tawfique Hasan 先生を大阪公立大学にお招きして Distinguished Lecturer 講演会を開催、「Miniaturization of optical spectrometers」という題目でご講演いただいた。参加者は 75 名と盛会であった。

8 月 29 日(木)-30 日(金)には、弘前大学で開催された電子情報通信学会 LQE/R/EMD/CPM/OPE 共催の 8 月研究会に協賛、招待講演 7 件と一般講演 8 件があった。参加者は 83 名と盛会であった。

10 月 18 日 (金) には、タイ・Institute of Public Policy and Development の Sarun Sumriddetchkajorn 氏を大阪大学にお招きして Distinguished Lecturer 講演会を開催、「Unleashing the Power of Agri-Photonics」という題目でご講演いただいた。参加者は 22 名と盛会であった。

10 月 26 日 (土) には、同志社大学にて「移動無線アクセスを支える IoT/マイクロ波・ミリ波/光ファイバ通信技術の展開」と題するワークショップを MTT-S Kansai と COMS Kansai の両チャプターと共催した。情報通信研究機構の松村 武 博士、東京理科大学の鬼沢 武 教授、KDDI 総合研究所の釣谷 剛宏 博士の 3 名からご講演をいただいた。参加者数は 37 名と盛会であった。

11 月 2 日(土)には、オンラインにて、「第 10 回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。5 名の学生による英語での発表が行われた。学生の優れた発表 1 件に対しては Best Student Presentation Award と副賞を授与した(Chapter 支援費を利用)。参加者は 13 名であった。

12 月 12 日(木)-13 日(金)には、機械振興会館で開催された電子情報通信学会 OPE/LQE/PICS 合同研究会 Photonic Device Workshop 2024 に協賛、LQE 奨励賞受賞記念講演 2 件、基調講演 3 件、招待講演 8 件、OPE/LQE1 種研として併催したポスター発表 22 件があった。PDW2024 の参加人数は 150 名と盛会であった。

Administrative Meeting としては、1 月、4 月、7 月、10 月、11 月にオンラインで役員会を 5 回開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

【2025 年活動計画】

2025 年も、Technical Meeting の開催を中心に活動を展開する。1 月 23 日には、例年通り電子情報通信学会 PN/MWP/EST/EMT/PEM 合同研究会と併催の形で特別講演イベントを主催する。また、例年好評を博している英語発表会を 11 月頃に開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2024 年活動報告】

以下の Technical Meeting を共催した。

1. 第55回ストカスティックシステムシンポジウム (SSS' 24)
開催日時:2024年12月13日~2024年12月14日
会場:舞鶴赤れんがパーク
参加者数:85名, 特別講演:1件, 一般講演:68件
2. 第39回信号処理シンポジウム
開催日時:2024年12月16日~2024年12月18日
会場:北海道大学学術交流会館
参加者数:200名, 特別講演:2件, 一般講演:122件

以下の Distinguished Lecturer 招聘講演会を開催した。

1. IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter 共催 DL 講演会
演者: Danilo P. Mandic 教授 (Imperial College London, UK)
演題: Interpretable Convolutional NNs and Graph CNNs: Role of Domain Knowledge
開催日時:2024年06月28日
会場:早稲田大学 北九州キャンパス
出席者数:32名 (うち会員16名)
2. IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter 共催 DL 講演会
演者: Danilo P. Mandic 教授 (Imperial College London, UK)
演題: Interpretable Convolutional NNs and Graph CNNs: Role of Domain Knowledge
開催日時:2024年07月16日
会場:オンライン
出席者数:32名 (うち会員16名)
3. IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter 共催 DL 講演会
演者: Danilo P. Mandic 教授 (Imperial College London, UK)
演題: Interpretable Convolutional NNs and Graph CNNs: Role of Domain Knowledge
開催日時:2024年07月17日
会場:大阪大学 中之島センター
出席者数:40名 (うち会員15名)
4. IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter 共催 DL 講演会
演者: Dr. Nancy F. Chen (A*STAR, Singapore)

演 題 : Multimodal, Multilingual Generative AI: From Multicultural Contextualization to Empathetic Reasoning

開催日時 : 2024 年 10 月 23 日

会場 : 品川シーズンテラスカンファレンス

出席者数 : 130 名 (うち会員 43 名)

また, 以下の Fellow 講演会を開催した。

1. IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, 奈良先端科学技術大学院大学 知能コミュニケーション研究室との共催による Fellow 講演会

演 者 : 中村 哲 教授 (NAIST, Japan)

開催日時 : 2024 年 03 月 19 日

会場 : ホテルグランヴィア京都

出席者数 : 210 名 (うち会員 50 名)

若手研究者および学生の表彰活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ 1 名、3 名、2 名の受賞者を選定した。

【2025 年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

【2024 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 国際会議 (主催) IEEE 12th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2024)

年月日/会場 : 2024 年 10 月 29 日 -11 月 1 日 / 北九州コンベンションセンター

発表件数 : 500 件

出席者数 : 650 名

内容 : 長谷前 Chair が設立した国際会議。毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2024 の Conference Chair は CTSoc の海老原格です。GCCE2024 の運営主体は CT-08 West Japan Chapter で、主たる運営はその会員で行なった。基調講演者として、ノーベル賞受賞者の田中耕一氏をお迎えした。

2. 講演会「IEEE 会長とノーベル賞受賞者の講演会」

年月日／会場：2024年10月11日／龍谷大学

出席者数：225名（会場25名、オンライン200名）

内容：長谷前 Chair がコーディネータとなり、IEEE 会長の Tom Coughlin 博士と、ノーベル賞受賞者の田中耕一氏の講演会があった。会場と Zoom オンラインで、IEEE 日本会員と R10 メンバーに2か国語で配信され、活発な質疑応答が行われた。

3. 国際会議（共催） 2024TRON Symposium

年月日／会場：2024年12月11日～12月13日／渋谷パルコ

出席者数：100名（IEEE CT Society が共催）

内容：CTSoc の共催（Technical Sponsor）により、国際会議 2024TRON Symposium を開催した。同場所で開催の TRONSHOW（6,000名参加）の一環として開催。長谷前 Chair が Vice-Chair として運営参加。また、長谷前 Chair による、TRON 電腦住宅の IEEE Milestone 認定記念のセッションがあった。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. チャプター役員会

年月日／会場：2024年10月28日／北九州コンベンションセンター出席者数：4名
2024年の運営体制に関して打合せを実施した。

2. チャプター役員会

年月日／会場：2024年12月4日／龍谷大学 出席者数：3名
2024年の GCCE2024 および TRON Symposium の準備に関して打合せを実施した。

3. チャプター役員会

年月日／会場：2024年12月11日／渋谷パルコ 出席者数：6名
後の進め方に関して打合せを実施した。

【2025年活動計画】

1. GCCE 2025:

2025年9月23日～9月26日に大阪市にて国際会議 GCCE 2025 を開催する。GCCE 2025 では Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

2. 2025 TRON Symposium:

12月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2025 TRON Symposium（CT Society の共催（Technical Sponsor））を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2024 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

該当なし

II. 協賛

1. 第 11 回 制御部門マルチシンポジウム

年月日/会場：2024 年 3 月 17～20 日 / 広島大学

発表件数：261 件

出席者数：533 名

2. システム制御情報学会・計測自動制御学会 チュートリアル講座 2024

(主催：システム制御情報学会，計測自動制御学会)

年月日/会場：2024 年 8 月 5 日 / 大阪大学 銀杏会館 (大阪府吹田市山田丘 2-2) ・
オンライン

発表件数： 2 件

出席者数： 92 名

3. 第 67 回自動制御連合講演会

(主催：システム制御情報学会(幹事)，計測自動制御学会，日本機械学会，化学工学会，精密工学会，電気学会，日本航空宇宙学会)

年月日/会場：2024 年 11 月 23, 24 日 / 姫路商工会議所 (兵庫県姫路市下寺町
43)

発表件数： 340 件

出席者数： 583 名

4. The 56th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications

(主催：システム制御情報学会)

年月日/会場：2024 年 12 月 13～14 日 / 舞鶴赤レンガパーク

発表件数： 65 件

出席者数： 86 名

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第一回役員会

年月日/会場：2024 年 3 月 6 日 / 大阪大学 E2 棟 3F セミナー室 出席者数：3 名

2. 第二回役員会

年月日/会場：2024 年 5 月 4 日 / リリーバンケット栄 出席者数：2 名

3. 第三回役員会

年月日／会場：2024年12月9日／オンライン 出席者数：4名

【2025年活動計画】

2025年は、主催行事として下記の講演会を開催予定。

1. IEEE CSS Kansai Chapter セミナー 2025

また、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

2. 計測自動制御学会 第12回制御部門マルチシンポジウム

3. ISCIE・SICE チュートリアル講座

4. The 57th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications

5. 第68回自動制御連合講演会

6. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. **IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter**

【2024年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. パワーエレクトロニクス学会 第252回定例研究会(4月)(共催)

年月日／会場:2024年4月13日 ダイキン工業(株)本社・Webハイブリッド開催

発表件数:4件

出席者数:111名

2. パワーエレクトロニクス学会 第253回定例研究会(6月)(共催)

年月日／会場:2023年6月15日 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス・Webハイブリッド開催

発表件数:4件

出席者数:85名

3. パワーエレクトロニクス学会 第254回定例研究会(9月)(共催)

年月日／会場:2024年9月14日 東京工業大学大岡山キャンパス・Webハイブリッド開催

発表件数:6件

出席者数:72名

4. パワーエレクトロニクス学会 第 255 回定例研究会(10 月)(共催)
年月日/会場:2024 年 10 月 12 日 株式会社ダイヘン十三事業所・Web ハイブリッド開催
発表件数:5 件
出席者数:61 名
5. パワーエレクトロニクス学会 第 256 回定例研究会(12 月)(共催)
年月日/会場:2024 年 12 月 14 日 大阪工業大学梅田キャンパス
発表件数:37 件
出席者数:192 名

II. 協賛

1. スマートエネルギーセミナー「ローカル VPP とデータサイエンスによるエネルギーパラダイム革新～次世代マイクログリッド、PV・EV 連系、防災強靱化～」
(主催:電気学会業応用部門 家電・民生技術委員会)
年月日/会場:2024 年 2 月 1 日 東京ビッグサイト 東 6 主催者事務室
発表件数: 11 件
出席者数: 104 名
2. 電気学会産業応用フォーラム「次世代パワエレ家電の進化と V2X との連携」
(主催:電気学会産業応用部門 家電・民生技術委員会)
年月日/会場:2024 年 2 月 16 日 大阪工業大学 梅田キャンパス 常翔ホール
発表件数: 7 件
出席者数: 75 名
3. 国際産業応用シンポジウム"Next-Generation of Power Electronics Technology Attracting Attention in the Global Consumer Electronics - V2X, WPT, VPP, PV, FC, EV, AI, Advanced generation power devices"
(主催:電気学会業応用部門 家電・民生技術委員会)
年月日/会場:2024 年 11 月 8 日 長崎出島メッセ 103 会議室
発表件数: 8 件
出席者数: 49 名

Non-Technical Meetings

1. 2024 年 IEEE IES JJC 第 1 回 幹事会議
年月日/会場:2024 年 4 月 13 日 ダイキン工業株式会社本社
出席者数: 4 名
2. 2024 年 IEEE IES JJC 第 2 回 幹事会議
年月日/会場:2024 年 12 月 14 日 大阪工業大学梅田キャンパス
出席者数: 4 名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award
(2024年4月13日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2023 年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として Quo カード 1 万円分を授与した。

主旨：(B)若手獲得・育成の企画

利用支援費 1 万円

内訳：副賞(1万円)／件 × 1 件

2. 2024 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2024 年 12 月に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会における学生・若手技術者によりポスター形式の発表の中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として Quo カード1万円分を授与した。

主旨：(B)若手獲得・育成の企画

利用支援費 1 万円

内訳：副賞(1万円)／件 × 2 件

【2025 年活動計画】

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催を予定している。

また、以下の表彰を行う計画である。

1. 2024 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12 月の研究会は対象から除外する)の満 35 歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文 1 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2023 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 12 月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で 30 件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2024 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. Summer School on Magnetism (主催)

年月日/会場：2024 年 7 月 13 日－7 月 15 日 プロム金沢

発表件数： 41 件

出席者数： 43 名

2. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)

演 者：Prof. Hiroaki Kusunose (Meiji University, Japan)

演 題：Novel type of cross-correlated responses related to toroidal order

年月日/会場：2024 年 10 月 29 日 大阪公立大学

出席者数： 38 名

3. MRIS 2024 (共催)

年月日/会場：2024 年 12 月 5 日－12 月 6 日 愛媛大学

発表件数： 13 件

出席者数： 58 名

4. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)

演 者：Prof. Hiroki Wadati (University of Hyogo, Japan)

演 題：Realization of magnetization reversal induced by an irradiation of ultra fast pulsed laser

年月日/会場：2024 年 12 月 10 日 大阪公立大学

出席者数： 18 名

II. 協 賛

該当なし

III. IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会

5. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)

演 者：Prof. S.N. (Prem) Piramanayagam (Nanyang Technological University, Singapore)

演 題：Brain-Inspired Computing Using Magnetic Domain Wall Devices

年月日/会場：2024 年 10 月 4 日 大阪公立大学

出席者数： 21 名

6. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)

演 者 : Prof. S.N. (Prem) Piramanayagam (Nanyang Technological University, Singapore)

演 題 : Brain-Inspired Computing Using Magnetic Domain Wall Devices

年月日/会場 : 2024 年 10 月 7 日 大阪大学

出席者数 : 19 名

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. Chapter chair meeting with overseas chapters' members

年月日/会場 : 2024 年 5 月 2 日 オンライン 出席者数 : 8 名

2. Chapter chair meeting with overseas chapters' members

年月日/会場 : 2024 年 12 月 4 日 オンライン 出席者数 : 10 名

【2025 年活動計画】

2025 年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。春か秋の適当な時期に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では学生に奨励賞を授与する予定である。これ以外に、関西・四国地区での研究会の主催を企画する。国内の他 MAG chapter との連携を強化しており、DL 講演会の共同開催などを進める。また、各国の chapter 間の国際協力活動を継続し、MagSoc virtual chapters meeting を通じて、若手研究者の交流やキャリア支援や DL 推薦などを協議する。また、他学協会と研究会などを共催・協賛する予定である。特に IEEE と関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を進める。併せて会員への情報提供のため web site の充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

n. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

【2024 年活動報告】

2024 年は 3 回の Technical meeting を実施した。その他、IEEE ISPCE 2024 (2024 年 4 月 30 日 - 5 月 2 日 @ シカゴ)に現地出席し、プレゼンテーションを実施した。2024 年 1 月にメンバー 1 名が Senior Member へ昇格、2024 年 12 月 14 日名古屋支部よりメダルを授与された。

Technical Meetings

1. 第 7 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2024 年 5 月 31 日/現地 (大阪大学) + Web のハイブリッド

発表件数:2 件

出席者数:11 名 (現地 4 名、Web 7 名)

2. 第 8 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2024 年 8 月 31 日/Web

発表件数:3 件

出席者数:8 名

3. 第 9 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2024 年 12 月 20 日/現地 (大阪大学) + Web のハイブリッド

発表件数:4 件

出席者数:9 名 (現地 5 名、Web 4 名)

【2025 年活動計画】

2025 年は最低年 3 回のミーティングの開催を計画している。

1. 第 10 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2025 年 5 月/現地 + Web のハイブリッド

2. 第 11 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2025 年 9 月/現地 + Web のハイブリッド

3. 第 12 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)

年月日/会場:2025 年 12 月/現地 + Web のハイブリッド

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況（2025年1月17日調査時点）

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231
2020	1	49	21	30	145	98	1,470	45	241	55	2,155
2021	1	49	24	32	159	107	1,427	34	234	67	2,134
2022	1	49	23	34	167	111	1,433	39	238	71	2,166
2023	1	48	19	38	174	119	1,423	43	274	79	2,218
2024	1	44	24	44	184	126	1,404	47	283	88	2,245

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

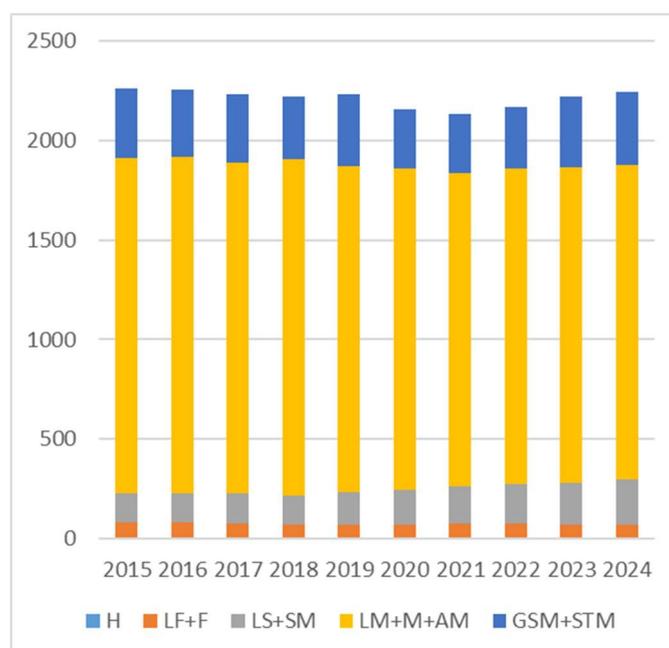


図. 会員区分の推移

2. ソサイエティ別会員数

[2024年12月31日更新]

◎ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	136	関西単独						◎			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎					
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎				
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	68	関西Joint						◎	○	○	○
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									◎
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	111	関西単独						◎			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独							◎		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独								◎	
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	23	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	38	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CT-08	Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	◎	○				
	Consumer Technology Society West Joint Japan Chapter	2008	26	関西Joint						◎	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	8	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	9	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	82	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	41	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	69	関西Joint	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	6	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	166	関西単独						◎			
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Computer Society Kansai Chapter	2006	317	関西単独						◎			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独								◎	
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	◎			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					◎				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	121	関西単独						◎			
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	110	東京Joint	○	○	○	◎	○	○			
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint							○	○	◎
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		○							
	Communications Society Kansai Chapter	2006	178	関西単独						◎			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	45	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	43	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	6	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	90	関西単独						◎			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	174	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	26	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		○							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	82	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独								◎	
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	3	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	47	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				◎					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	○							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			◎						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					◎				
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	35	関西Joint						◎	○		
	Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint								◎	○
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	55	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	81	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独								◎	
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	62	関西単独						◎			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独								◎	
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	106	関西単独						◎			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	21	東京単独				◎					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					◎				
PSE-43	Product Safety Engineering Society	2021	2	関西Joint					◎	○			
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○

他支部Jointで関西支部会員数が50名を越えるもの

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2024年 会計報告

収入の部	2024計画		2024実績	
◆IEEE Entity間勘定	2,758,491	内容 (2023実績ベース)	2,676,405	内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,874,029	2023年度実績 : \$13,522.20×138.70 JPY/USD - 手数料 ¥1,500	2,165,148	\$13,480.05×160.73 JPY/USD - 手数料¥1,500
▲ Chapter Rebate支払	▲ 386,973	2023年度実績 : (\$200×1.1)×11+\$75×2=\$3,010×138.70 全13Chapter分 (内、1Chapterは0) 支払	▲ 389,772	(\$200×1.1)×11+\$75×3=\$2,645×160.73 全14Chapter分 (内、1Chapter47,415円はプール、3Chapterは0) 支払、PSE未払い35,361円
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 40,917	2023年度収入 : (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×138.70 8/13 LMAG分 40,917円支払 WIE分 40,917円プール中 YP分 40,917円プール中	▲ 47,415	(\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×160.73 7/19 LMAG分 47,415円支払 WIE分 47,415円プール中 YP分 47,415円プール中
・ SB Rebate	168,143	2023年度実績 : \$1212×139.97 JPY/USD - 手数料¥1,500	137,692	\$866×160.73 JPY/USD - 手数料¥1,500
▲ SB Rebate支払	▲ 169,644	9/28 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払	▲ 173,905	7/19 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払
・ Section Rebate 小計	1,444,638		1,691,748	
・ Section Assessment 2024	4,900,044	2023年度実績 : \$34,816.02*¥138.43=¥4,819,581, 6/12	5,363,162	前期 \$34,172.10*153.80=¥5,255,668, 4/22 後期 \$701.43*153.25=¥107,494, 11/25
▲ Japan Council提出金+手数料	▲ 4,165,037	2023年度実績 : 上記の85% (振込手数料含) 4,096,644円 (換金手数料1,500円、振込手数料330円含む)	▲ 4,558,688	前期 4,467,318=4,465,048+1,500+770 (換金手数料1,500円、前期振込手数料770円) 後期 : 91,370=89,210+1,500+660 (後期振込手数料660円)
・ Section Assessment小計	735,007	2023年度実績 : 15%還元残高	804,474	15%還元残高
・ LMAG Fund	0		0	
・ WIE Fund	0		0	
・ YP Fund	0		0	
・ AG Fund 小計	0		0	
・ Section Incentives	0		0	
・ TENCON2020余剰金	466,000	<2023年末着> -> 2024年度へ持ち越し: ¥466,000		
	7,846	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)	7,620	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)
			74,320	2024 Region 10 Best Membership Retention Large Section Award (\$500)
・ 銀行利息	105,000	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10月,11月,12月 UFJ 2月7、8月12	98,243	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 UFJ 2月19日、8月19日
・ その他小計	578,846		180,183	
◆ Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	291,000		185,544	
・ Section支援 (YP)	80,000	YPイベント支援費		
・ Section支援 (EA)	111,000	IEEE Kansai Section EAイベント支援費	185,544	関西支部EAイベントJC支援 (9/7)
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	100,000	2024年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払い		
小計	3,049,491	TENCON2020余剰金 (466000) は特例	2,861,949	
◆ 前年度からの繰越金	4,637,977	¥口座 ¥2,766,944.- (2023年会計締め) \$口座 ¥1,871,033.- \$16,773.39- TTB Avg 111.55	4,637,977	¥口座 ¥2,766,944.- (2023年会計締め) \$口座 ¥1,871,033.- \$16,773.39- TTB Avg 111.55
合計	7,687,467		7,499,926	

支出の部	2024年計画		2024年実績	
◆会合・AWARD・活動	4,540,050	内容	3,967,066	内容
・関西支部活性化費	1,700,000	2023年実績相当+R10東京イベント 600,000 R10東京イベント学生等派遣費(13名3泊4日) 60,000 JapanSYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group)学生派遣 (8月2名) 280,000 若手ワークショップ (YP 9~10月、JC支援費含む) 160,000 社会人と学生の交流会 (YP 7月~8月) 300,000 IEEE関西 Fellow Club (NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会 (MDC) 200,000 一般向け科学/技術教育イベント (EA9月JC支援費含む)	1,183,653	139,742 SYWL派遣: 2名 (61,562、78,180)、台風参加キャンセル料2,000、WIE 1名派遣84,407 45,720 第1回Fellow Club開催 35,800 社会人と学生の交流会会場費 (10/9) 371,089 EAイベント (9/7) : チラシ印刷1960,会議室利用 254,285、スタッフ昼食33,250、スタッフ旅費64,580、講師謝礼 Quoカード15,044 30,656 出張FellowClub(11・26) 経費 3520 シンギュラリティ講演会 (12/12) チラシ印刷、341,000 LMAGイベント懇親会費 (12/12) 、△60,000 懇親会費負担入金 金、31,621 LMAG関西2024経費K 北海道YP共催イベント(12/11)派遣交通費A 75,930 B 48,240 第3回FellowClub開催費 35,898
・総会開催費	660,000	2023年計画と実績を考慮 (JCには下の参加費入金を差引いた金額を報告) : 資料印刷費、会場費 (148500)、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、9,000コース×35名=315,000 + 会場費50,000 = 365,000 下記懇親会費徴収額を超える215,000を支部が負担	889,202	総会会場費・懇親会場費: 262,130、42,372 (懇親会費: 515,700 (飲食費10800×48-2700 (値引き)) その他 資料印刷 54720 学生旅費補助 14280
▲懇親会費徴収	▲150,000	総会懇親会 (懇親会参加費入金分) (5,000円×30名想定) 学生は全額支部負担も想定	▲132,000	4000円×33名
・講演会開催費 (TPC)	150,000	2023年計画相当: TPCの講演者への謝礼: 3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	19,980	19,980 技術講演会開催 (6/29)
・理事会費	408,000	2023年計画と実績を考慮 会場代他 (6.8万円×6回予定)	441,630	第一回理事会会場費/弁当: 22,000/48,702 第三回理事会会場費/弁当代: 39,864/53,834 第四回理事会会場費/弁当: 36,344/52,998 第五回理事会会場費/弁当: 39,864/48950 第六回理事会会場費/忘年会費: 0/175,074 忘年会費入金(19名) : △76,000
・Committee会費	150,000	2023年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	124,740	76,860 2024 1st MDC/SAC/YP/WIE JOINT WS会場費 47,880 2024 2nd MDC/SAC/YP/WIE Joint WS会場費 (11/25)
・メダル、研究奨励費	482,050	2023年計画と実績を考慮: 200,000 学生研究奨励費(¥20,000 10名): 2024年総会用 賞状代: 30000 52,050 YP賞メダル(3個分): 2024年総会用 200,000 JC大メダル(20個分): 2025年総会用 (在庫含む)、JCより半額支援金含む	252,050	200,000 学生研究奨励費(¥20,000 10名): 2024年総会 52,050 YP賞メダル(3個分): 2024年総会用
・Student Branch支援費	100,000	2023年実績相当: SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 アレキストミダグコファスト 年末交流会 (12月) 等	164,819	5,095 SB Chairsミーティング (6/13) 2,640 SB研究交流会(8/2) 138,696 SB北海道イベント (12/3) 18,388 SB年末交流会
・LMAG支援費	200,000	2023年計画相当+ハイブリッド会議費用: 40,000 技術講演会開催・準備費用 (手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削 (香填依頼) 50,000 東洋館LMAG会議参加費 (旅費: 香) 8,000 LMAGサロン等活動費 (事務費用含む) 22,000 SBプレスト大会 (LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会 (LMAG賞) (10~11月) 40,000 ハイブリッド会議費	200,264	50,963/20,000/13,200 第26回LMAG講演会会場費/講師謝礼/懇親 会講師招待 (5/27) 26,979 Zoom契約と音響機材運搬費用 (5/6) 49566 第2回シンギュラリティ技術講演会会場費 (6/29) 16,830 スクリーンポインタ 20,372 LMAG12月経費O、2,354 LMAG12月経費Y
・WIE支援費	350,000	2023年実績および10周年記念を考慮: R10 Fund含む WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	350,108	215,269 打合せ (第1~3回) およびWIE Symposium経費 50,000 Tシャツデザイン料 21,980 Wifiルータ、62,859 オンラインストレージ
・YP支援費	330,000	10周年記念イベント+博士のキャリアを語る会、Overleaf勉強会 (支部外YPと合同開催)	442,620	Overleaf勉強会(5/18)旅費/ソフト使用料 (a6,210、b46,722、 c19,490) /1,431 106,920 博士のキャリアを語る会会場費、20,240 懇親会費、 35,580 交通費A、54,650 交通費T(11/10) 139,359 10周年と語る会が交通費、フック印刷等雑費 12,018 Google_One契約等雑費
・EA支援費	100,000	EA活動拡大支援費		
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件	30,000	SSCS ISSCC国内報告会会場使用料(3/15): 30,000
◆事務経費	600,000		13,444	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	
・事務用品費	0	ファイル等	3,038	3038: マイクケーブル2本
・旅費	600,000	R10Meeting3/2~3/Kuala Lumpur: 400,000 (Air往復200,000、 Hotel25,000×3、Food and beverage20,000×4、Others: 10,000×4) x1人他		
R10支援費				
・通信費	0	郵送費、宅急便等	10,406	メダル送付用レターバックプラス: 6 x 520 = 3,120 4000 LMAG講演会機材送付(5/27,6/29)、EA (9/7) 宅配便1,970 1,316 忘年会コート間違え宅配 (12/26)
◆雑費	30,000		▲459,319	
・取引手数料、他	30,000	2023年計画相当: 為替手数料 (CB口座の為替損益調整は円安傾向で益の見直し) 振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	▲459,319	口座残高証明書発行手数料: 770 振込手数料 58,080 ▲¥518,169 為替損益 (1/1 \$残高\$16773.39、¥1,871,033.-、 TTB Avg 115.55 を 1/4付TTB 142.44 で換算 ⇒ ¥2,389,202)
小計	5,170,050		3,521,191	
◆次年度への繰越金	2,517,417	2024年への繰越金	3,978,735	¥口座 ¥2,057,359- (2024年会計締め) \$口座 ¥1,921,376- \$13,803.77- TTB Avg 139.19
合計	7,687,467		7,499,926	

VII. 2025年 予算

収入の部		2024年実績	2025計画	
◆IEEE Entity間勘定		2,676,405	3,173,085	内容 (2024年実績ベース)
	・ Section Rebate (IEEE本部より)	2,165,148	2,165,148	2024年度実績 : \$13,480.05×160.73 JPY/USD - 手数料¥1,500
	▲Chapter Rebate支払	▲ 389,772	▲ 389,772	2024年度実績 : (\$200×1.1)×11+\$75×3=\$2,645×160.73 全14Chapter分 (内、1Chapter47,415円はプール、3Chapterは0) 支払
	▲Affinity Group Rebate支払	▲ 47,415	▲ 47,415	2024年度実績 : (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×160.73 7/19 LMAG分 47,415円支払 WIE分 47,415円プール中 YP分 47,415円プール中
	・ SB Rebate	137,692	137,692	2024年度実績 : \$866×160.73 JPY/USD - 手数料¥1,500
	▲SB Rebate支払	▲ 173,905	▲ 173,905	7/19 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払
	・ Section Rebate 小計	1,691,748	1,691,748	
	・ Section Assessment 2025	5,363,162	5,363,162	2024年実績 : 前期 \$ 34,172.10*153.80=¥5,255,668, 4/22 後期 \$ 701.43*153.25=¥107,494, 11/25
	▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 4,558,688	▲ 4,558,688	前期 4,467,318=4,465,158+1,500+660 (換金手数料1,500円、振込手数料660円) 後期 : 91,370=89,210+1,500+660
	・ Section Assesment小計	804,474	804,474	2024年実績 : 15%還元残高
	・ LMAG Fund	0	0	
	・ WIE Fund	0	0	
	・ YP Fund	0	0	
	・ AG Fund 小計	0	0	
	・ Section Incentives	0	0	
	・ TENCON2020余剰金	0	466,000	<2024年未着> -> 2025年度へ持ち越し: ¥466,000
	・ IEEE YP Funding		105,000	The 6th Workshop on Career Development in Doctoral Course held on 11/10/24.(\$750-)
		7,620	7,620	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)
		74,320		2024 Region 10 Best Membership Retention Large Section Award (\$500)
	・ 銀行利息	98,243	98,243	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 UFJ 2月19日、8月19日
	・ その他小計	180,183	676,863	
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)		185,544	285,544	
	・ Section支援(YP)			
	・ Section支援(EA)	185,544	185,544	IEEE Kansai Section EAイベント支援費
	・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)		100,000	2025年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払い
	小計	2,861,949	3,458,629	TENCON2020余剰金 (466000) は特例
◆前年度からの繰越金		4,637,977	3,978,735	¥口座 ¥2,057,359.- (2024年会計締め) \$口座 ¥1,921,376.- \$13,803.77- TTb Avg 139.19
合計		7,499,926	7,437,364	

支出の部		2024年計画		2025年計画	
◆会合・AWARD・活動	4,540,050	内容	4,386,394	内容	
・関西支部活性化費	1,700,000	2023年実績相当+R10東京イベント 600,000 R10東京イベント学生等派遣費(13名3泊4日) 60,000 JapanSYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group)学生派遣 (8月2名) 280,000 若手ワークショップ (YP 9~10月、JC支援費含む) 160,000 社会人と学生の交流会 (YP 7月~8月) 300,000 IEEE関西 Fellow Club (NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会 (MDC) 200,000 一般向け科学/技術教育イベント (EA9月JC支援費含む) 2023年計画と実績を考慮 (JCIには下の参加費入金分を差引いた金額を報告) :	1,200,000	2024年実績相当+追加イベント等見込み(EA9月イベントはEA支援費へ) 300,000 SYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group)学生等派遣 300,000 若手ワークショップ (YP 9~10月、JC支援費含む) 200,000 社会人と学生の交流会 (YP 7月~8月) 300,000 IEEE関西 Fellow Club (NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会 (MDC)	
・総会開催費	660,000	資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、9,000コース×35名=315,000 + 会場費50,000 = 365,000	900,000	2024年計画と実績を考慮 (JCIには下の参加費入金分を差引いた金額を報告) : 400,000 資料印刷費、会場費 (総会会場、懇親会場)、学生受賞者旅費、消耗品費、等 懇親会費は、10,000コース×50名想定=500,000	
▲懇親会費徴収	▲ 150,000	総会懇親会 (懇親会参加費入金分) (5,000円×30名想定) 学生は全額支部負担も想定	▲ 150,000	総会懇親会 (懇親会参加費入金分) (5,000円×35名想定) 学生は全額支部負担も想定	
・講演会開催費 (TPC)	150,000	2023年計画相当: TPCの講演者への謝礼: 3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	150,000	2024年計画相当: TPCの講演者への謝礼: 3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	
・理事会費	408,000	2023年計画と実績を考慮 会場代他 (6.8万円×6回予定)	450,000	2024年実績を考慮 会場代他 (9.0万円×5回予定)	
・Committee会合費	150,000	2023年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	150,000	2024年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	
・メダル、研究奨励賞	482,050	2023年計画と実績を考慮: 200,000 学生研究奨励賞(¥20,000 10名): 2024年総会用 賞状代: 30000 52,050 YP賞メダル(3個分): 2024年総会用 200,000 JCメダル(20個分): 2025年総会用 (在庫含む)、JCより半額支援金含む	315,394	2024年計画と実績を考慮: 80,000 学生研究奨励賞(¥20,000 4名): 2025年総会用 35,394 YP賞メダル(3個分): 2025年総会用 200,000 JCメダル(20個分): 2026年総会用 (在庫含む)、JCより半額支援金含む	
・Student Branch支援費	100,000	2023年実績相当: SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 "プレイストミン"コフレット 年末交流会 (12月) 等	150,000	2024年実績相当: SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 "プレイストミン"コフレット 年末交流会 (12月) 等	
・LMAG支援費	200,000	2023年計画相当+ハイブリッド会議費用: 40,000 技術講演会開催・準備費用 (手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削 (香浜依頼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費 (旅費: 香) 8,000 LMAGサロン等活動費 (事務費用含む) 22,000 SBプレスト大会 (LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会 (LMAG賞) (10~11月) 40000 ハイブリッド会議費	176,000	2024年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用 (手土産・講師謝礼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費 (旅費: 香) 8,000 LMAGサロン等活動費 (事務費用含む) 22,000 SBプレスト大会 (LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会 (LMAG賞) (10~11月) 36,000 ハイブリッド会議費	
・WIE支援費	350,000	2023年実績および10周年記念を考慮: R10 Fund含む WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	350,000	2024年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	
・YP支援費	330,000	10周年記念イベント+博士のキャリアを語る会、Overleaf勉強会 (支部外YPと合同開催)	435,000	24年計画+Fund入金相当 博士のキャリアを語る会、Overleaf勉強会 (支部外YPと合同開催)	
・EA支援費	100,000	EA活動拡大支援費	200,000	一般向け科学/技術教育イベント (EA9月JC支援費含む)	
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件	60,000	30,000×2件	
◆事務経費	600,000		500,000		
・外部監査費	0	外部監査不要	0	外部監査不要	
・事務用品費	0	ファイル等	0	ファイル等	
・旅費	600,000	R10Meeting3/2~3/Kuala Lumpur: 400,000 (Air往復200,000、Hotel25,000x3、Food and beverage20,000x4、Others: 10,000x4) x1人他	500,000	R10Meeting2/22~2/23 Incheon, South Korea: 400,000 (Air往復100,000、Hotel25,000x3、Food and beverage20,000x4、Others: 10,000x4) x1人他	
・R10支援費					
・通信費	0	郵送費、宅急便等	0	郵送費、宅急便等	
◆雑費	30,000		30,000		
・取引手数料、他	30,000	2023年計画相当: 為替手数料 (CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	30,000	2024年計画相当: 為替手数料 (CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	
小計	5,170,050		4,916,394		
◆次年度への繰越金	3,368,395	2025年への繰越金	2,520,970	2026年への繰越金	
合計	8,538,445		7,437,364		

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (2名)

江口 佳那	京都大学
二社谷 一樹	大阪大学

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (4名)

宮崎 悠人	大阪大学
水野 海渡	大阪大学
竹内 正稀	大阪大学
吉仲 佑太郎	大阪大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior member) (20名)

新井 イスマイル	奈良先端科学技術大学院大学
陳 伝彤 (チン テントウ)	大阪大学
藤井 菜美	近畿大学
古橋 壮之	三菱電機
平松 星紀	三菱電機
廣瀬 裕	Panasonic
衣斐 信介	同志社大学
飯山 将晃	滋賀大学
河西 秀典	奈良先端科学技術大学院大学
近藤 亮太	三菱電機
ルー シュガン	情報通信研究機構
棟安 実治	関西大学
長久保 白	大阪大学
中嶋 宏	東京都立大学
中澤 敏志	Panasonic
大島 一能	大阪工業大学
高林 幹夫	三菱電機
高井 重昌	大阪大学
山口 弘純	大阪大学
吉井 和佳	京都大学

IEEE 関西支部 新 Fellow

(3名)

原田 博司

京都大学/情報通信研究機構

篠原 真毅

京都大学

松下 康之

大阪大学

(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE Japan Council メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE Japan Council メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は関西支部が IEEE Japan Council メダルを Japan Council から購入した最新の購入単価とする。

4. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
5. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
6. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規定は、施行/改定承認日から適用する。

また、本規定の施行と同時に、IEEE 関西支部メダル授与規定(2017 年 1 月 1 日改定)を撤廃する。

2022 年 2 月 22 日施行

年 月 日改定

年 月 日改定

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee(SAC)に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JC COC の手続きに従うこととする。

国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

2021年6月18日 改訂

2022年3月10日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee

Tokyo Section Chapter Operations Committee

1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係する OU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成
- ・ <注意> MOU 締結申請をした際には、MOU 申請者は支部の 3 役(Chair, VC, Secretary)

に連絡すること

【参考】 IEEE における Sponsorship の定義について

Types of Sponsors 詳細は以下参照

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>

国内での協賛（後援）は IEEE では以下に該当する。

Non-Sponsor Support（WEB などに情報を掲載する場合は細かい種別は掲載せず、「Non-Sponsor Support」という用語を利用頂く。）

Non-Sponsor Support は以下を含む：

-
- ・Partners
 - ・Contributors
 - ・Patrons
 - ・Supporters
 - ・Publicity
 - ・Keynotes
 - ・Exhibitors
-

国際会議の場合、Conference application には Non-Sponsor Support の記載欄が無い場合、協賛（後援）の場合は、団体名は記載しないよう注意する。

- (1) 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録後、IEEE MCE より、該当する OU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局は Section COC (Chair)に検討依頼を行う。
#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連 Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

- (2) Section COC(Chair)は該当する Chapter に対して、確認、審議を行う。
複数の Section の Chapter からなる Joint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなく Joint のすべての Section の Chair, Secretary (#2), (当該 Section に存在する場合)COC とも期限を定めて審議を行う。
協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとに Section の COC (Chair)が設定する。
#2 Main Section 以外の Section の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair)に電子メールにて報告する。この際に、本部 web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

- ① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の 3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までに Section から非承認回答がなければ、承認として処理する。

* IEEE の Technical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が 2019 年 1 月 1 日より導入され、IEEE Geo Unit と TCS を締結している国際会議は 1,450 ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として 22 ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額 1,450 ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual: 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee

https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_2021.3.30_FINAL.pdf

- ② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。
- ・ 「関係 Section は一切の金銭負担は負わないこと」を Chapter に伝えるとともに、
 - ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
 - ・ FCS については、関係全 Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後に Section Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時に Chapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録を行う前に、事前に Chapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式に web 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>
https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

2. Chapter が関係しない Section や Japan Council での Sponsorship の承認手順

国内学会等からの Section (Japan Council) 宛の協賛依頼については、Section(Japan Council)理事会のメール審議などで協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。Japan Council では協賛対応は行うが、Technical Co-Sponsorship については、会議において Technical な部分でのサポートが求められるため、原則対応せず、関連分野の Chapter での対応を推奨する。

*日本国内での協賛、後援について、ホームページや各種媒体への名義掲載に際し、英語表記の場合、該当する IEEE での用語利用に注意頂く。(【参考】 Sponsorship の定義についてを参照)

協賛(後援、協力)については、Co-Sponsorship, Technical Co-Sponsorship には該当せず、Non-Sponsor Support のカテゴリーでの対応をお願いする。

用語の利用について、日本国内での協賛イベント（研究会、講演会など）も IEEE Policy の国際会議のガイドラインに準拠した対応とする。

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>
<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf#page=76>

3. MOU を必要としない Chapter での Sponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合 Chapter 内で可否を審議判断し、所属 Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が 25,000USD を超過する会議において、当該 Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
（運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合）

- (2) 会議の財政規模が 25,000USD 以下の会議において、当該 Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
（運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合）

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

※ 注意点

- ・いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からは IEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によっては MOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いは JC-COC に問い合わせる
- ・ Logo の使用に当たっては IEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>
https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

【参考】 MOU の要否判断例

-----JC COC 提案の更新版-----

【参考】 MOU の要否判断例

運営責任その他の提供役務の有無に応じて下表のようにケース 1～4 を定義する。

「共催」、「協賛」等の用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断する。

ケース\提供役務	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」 「共催」相当)	有	有	有	有	有	有	有
ケース 2 (多くの場合「協賛」相当)				有	有	有	有
ケース 3 (多くの場合「協力」相当)					有	有	有
ケース 4 (多くの場合「後援」相当)						有	有

ケース 3、4 では MOU 不要と判断する。

特に、財政規模が 25,000USD 以下の会議ではケース 2 も MOU 不要と判断する。

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断
以上

2025 年 IEEE 関西支部連絡先
〒661-8661 尼崎市塚口 8 - 1 - 1
三菱電機株式会社 先端技術総合研究所内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>